

卒後ワークライフバランスについて考える会（J-PASS）
2017 報告書



2017
自治医科大学

目 次

● Contents ●

I. はじめに	3
II. 卒後ワークライフバランスについて考える会2017 in Jichi	5
1. 開催概要	7
2. 次第	8
3. 開催内容	9
第1部 講演会	9
開会挨拶	9
講演会	10
自己分析プログラム	12
第2部 懇談会	29
挨拶	29
懇談会/情報交換会	29
グループワーク	30
4. アンケート結果報告	35
5. 参加者名簿	38
III. 卒後ワークライフバランスについて考える会	
2017年度ブロック担当会議	41
1. 開催概要	42
2. 次第	43
3. 開催内容	44
開会挨拶	44
自治医大の1年間の活動報告	44
ブロック担当者の1年間の活動報告	44
全体討論	55
まとめ	61
閉会挨拶	62
4. 参加者名簿	63
IV. 学生懇談会	65
1. 開催概要	66
2. 開催内容	67

I. はじめに



卒後指導委員長

臨床検査部 教授 山田 俊幸

昭和 53 年 3 月に本学医学部第 1 期生が卒業した際、卒業生 105 名中、女性は 1 名でした。過去を振り返ると、女性卒業生は 1 期から 10 期まで 22 名、11 期から 20 期まで 91 名、21 期から 30 期まで 228 名、31 期から 40 期生まで 229 名となっており、21 期生が卒業した平成 10 年から 30 期生が卒業した平成 19 年までにかけて飛躍的に女性卒業生の数が増加していることが分かります。平成 30 年 3 月に卒業予定の 41 期生までを含めると女性卒業生の数は 606 名に上り、また、現在、医学部学生に占める女子学生の割合は 3 割を超えています。

卒後指導委員会では女性の増加に伴い、結婚・出産・育児の負担が医師としての負担に上乗せされることも多いことから、仕事と家庭の両立が叶うよう勤務の継続に対する支援を平成 20 年度から実施してきました。

講演会と交流会の 2 本立てとする現在の形式の「卒後ワークライフバランスについて考える会」は平成 24 年度より実施しています。その頃は特に女性医師に対する支援が重点的に検討されてきましたが、女性が大幅に増加した現在、女性医師を支援するだけでは成り立たず、ワークライフバランスを検討する対象者として男性医師や既婚者、未婚者を含めた幅広い支援やキャリアの提案が必要になってきた印象を受けます。

今年の「ワークライフバランスについて考える会」講演会の際は、子育て支援サービスを上手く活用しながら男児 4 人を離島や山間部等で育て、義務年限を務めあげた女性医師、学生時代から波乱万丈ありながらも現在は 2 児の母として子育てと専門医取得と 2 足のわらじで日々奮闘中の義務内女性医師、離島の産婦人科医として漫画のモデルにもなった、実は助産師の妻に動かされているかもしれない(!?)男性医師と、例年にも増してバラエティに富んだ演者 3 名からご講演いただきました。参加者にとって卒後をより具体的にイメージできる機会となったと共に、義務年限中、また義務年限が終了した後の可能性についても様々な視点から考えることができました。

卒業生の数だけ進路があるように、卒後指導委員会でも広い視野を持って支援を継続していきたいと思います。ここに、卒後ワークライフバランスについて考える会 2017 の報告書を作成いたしましたので今後の参考としていただければ幸いです。

最後に、1 年生から 6 年生の多くの学生にも参加いただき、盛会に終えることができました。また、ご多用の中参加いただいた卒業生に心より感謝申し上げます。

Ⅱ．卒後ワークライフバランスについて考える会 2017 in Jichi

1. 開催概要

- 概 要 「卒後ワークライフバランスについて考える会 2017 in Jichi」
第1部：卒業生による講演
第2部：懇談会
- 目 的 女子学生の増加に伴い、卒業後の義務年限の履行と結婚・出産・育児との両立が今後の課題となることが避けられない状況の下、学生に在学中からキャリアの面について卒後のワークライフバランスをイメージしてもらう機会を設けるとともに、より多くの卒業生と顔見知りになってもらう。
- 開催日 平成29年6月11日（日）
- 会 場 第1部：医学部学生寮 大ラウンジ
第2部：医学部学生寮 大会議室
- 参加者 第1部：67名（卒業生18名、在学生35名、その他4名、関係者10名）
第2部：56名（卒業生15名、在学生31名、関係者10名）
- 主 催 卒後指導委員会（地域医療推進課）
- 協力者 牧野 伸子（卒後指導委員会女性医師支援担当）
石川 鎮清（卒後指導委員会女性医師支援担当）
石川由紀子（卒後指導委員会女性医師支援担当）
中村 剛史（卒後指導委員会女性医師支援担当）
小島 華林（卒後指導委員会女性医師支援担当）
山本さやか（卒後指導委員会女性医師支援担当）
市川 真衣（医学部6年生）
大西 真衣（医学部6年生）
上原奈緒美（医学部3年生）

2. 次第

第1部・講演会

日 時：平成29年6月11日（日）10：00～12：20

場 所：医学部学生寮 大ラウンジ

テ ー マ：地域でのワークライフバランスとキャリアを支える

司会進行：熊倉盛男地域医療推進課長

時間	内容	摘要
10：05	開会挨拶	山田俊幸卒後指導委員長
10：10	会趣旨説明及び卒業生への支援について	牧野伸子卒後指導副部長
10：20	講演① 「すべての出会いに感謝して ～自治医大出身の一母として、今思うこと～」	吉村裕子医師 東京都25期卒業 (医) 益城病院
10：50	講演② 「おばちゃん家庭医への道！」	紙本美菜子医師 鳥取県31期卒業 南部町国保西伯病院
11：30	講演③ 「これだから離島医療はやめられない！」	加藤一朗医師 島根県21期卒業 隠岐病院
12：00	質疑応答	
12：05	自己分析プログラム解説	横松陽子氏 NPO 法人とちぎユースワークカレッジ
12：20	写真撮影	

第2部・懇談会

日 時：平成29年6月11日（日）12：30～13：45

場 所：医学部学生寮 大会議室

司会進行：牧野伸子卒後指導副部長（女性医師支援担当）

時間	内容	摘要
12：30	開会挨拶 女性医師支援担当教員紹介	高本和彦卒後指導部長
12：35	昼食 情報交換会	
13：05	グループワーク	
13：35	卒業生からのコメント アンケート記入	

3. 開催内容

第1部 講演会

開会挨拶

山田 俊幸 卒後指導委員長
(臨床検査部 教授)

この会は卒業生が義務年限中に直面するであろう問題を学生のうちから考えるために設けられており、「卒後ワークライフバランス会」という名称になってからは6年目、また学生寮での開催は3回目となります。今年入学した女子学生は30名、全学生に占める女子学生の割合は3割で、今後ますます増えていくことが予想されます。本日の会では男子学生も交えてこの問題を考えてもらいます。

講演会では遠路お越しいただいた講師の先生のお話を聞いて、また午後からの懇談会ではリラックスしながら実りのある1日を楽しんで過ごしていただきたいと思います。



会趣旨説明及び卒業生への支援について

出産・育児に奮闘する卒業生が義務年限を無事に過ごすことができるように、大学として何かお手伝いをすることができないだろうか、というところから女性医師支援の取組みは始まりました。「卒後ワークライフバランスについて考える会」は全国に散らばってしまう前に卒後のことを考えてもらう機会として医学生への卒前教育という形で大学の事業として進めてきました。

はじめは出産・育児に奮闘する女性卒業生を支援するためとしていた活動ですが、それだけが卒後の困難ではありません。男性医師もキャリアの道を進んでいる医師も、それぞれにワークライフバランスについて悩みや葛藤があるのではないかと思います。

自治卒医は自分の思ったタイミングでは思い通りに動けないジレンマを義務年限中、抱えています。そのジレンマを乗り越えていく中で自分自身を肯定できないと感じている卒業生がいることも事実です。

それぞれに自己肯定感を持って前に進んでほしいという思いから、卒後のワークライフバランスに関する取組みについて『J-PASS』（Jichi/Post graduation/Self-Affirmation/Support/System）という名前を付けました。

みんなで一緒に考えていく、そのような気持ちで支援をしていきたいと思っています。

講演会

講演① 吉村裕子先生

「すべての出会いに感謝して

～自治医大出身の一母として、今思うこと～」



講演② 紙本美菜子先生

「おばちゃん家庭医への道！」



講演③ 加藤一朗先生

「これだから離島医療はやめられない！」



会場からは時折笑い声があがっていました



<学生からの質問>

○市川真衣さん（医学部6年生）

〔質問〕

6年生なので学生生活が残りわずかですが、先生方のようなパワフルなご活躍を見て、自分も先生方のような医師を目指したいと思います。学生時代にしておいた方が良いことがあれば教えてください。



〔回答〕



（吉村先生）

しっかり遊ぶ。仲間との語らい、ふれあい、やりたかったことに手を出す。医師になると忙しいので時間のある今のうちに興味のあることに取り組んでみてください。

(紙本先生)

勉強はルールに乗っていけばそれなりに…というところはあるので、勉強以外の面、特に自分のテリトリー外の人とふれあってほしいと思います。自分が受け入れられるかどうかで患者の幅も変わってきます。地域に出ると色んな人と接することになりますが、世の中様々な人がいるという経験をして、心や感情の持ち方を学んでください。



(加藤先生)

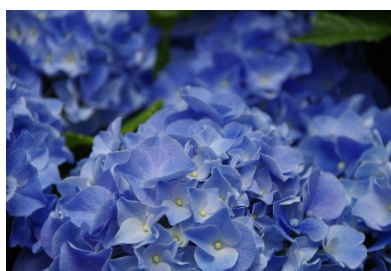
色々な経験を積んでください。薬師祭の実行委員長を2年間務めました。妻との出会いはそこでした。学内、学外に関らず多くの経験が糧になります。

自己分析プログラム

NPO 法人とちぎユースワークカレッジ
理事長 横松陽子氏

まず26枚の色とりどりの花の写真を見て、その中から特に自分の心に残った写真を元に、今の自分の心の状況について解説していただきました。

横松氏からは「色を選ぶことは自分の状況を伝える点においてとても有効です。自分が何色に関心があるかをたまに観察してみると良いでしょう。色に癒されることもあるので、落ち気味な気分になったら明るい色を身近なところに取り入れるなどして、心のバランスを取ってみましょう。」と講評いただきました。



1

すべての出会いに感謝して

～自治医大出身の一母として、今思うこと～

社会医療法人ましき会 益城病院 吉村裕子

2

自己紹介

1995年 筑波大学附属高校卒業
1996年 自治医科大学入学（東京都25期）
2002年 同卒業、都立府中病院（現：多摩総合医療センター）研修医
2004年 熊本県25期生と結婚
2005年～2007年 熊本にてへき地勤務
2008年～2010年 東京にてへき地勤務・後期研修
2011年 自分は義務年限延長で熊本県沿岸部地域中核病院へ。
2012年 自分も義務明け、熊本大学医学部附属病院勤務。
2014年 医局人事で益城病院に派遣。

学生時代は水泳部・バンドなど。
義務明け後は 精神科に入局。
こどもは男の子ばかり4人（小5・小1・5歳・2歳）

3

自治医大卒業生としての悩み

- ▶ 義務年限中は...
仕事・・・勤務場所を自分では選べない（ことも多い）
結婚・・・相手が同窓生の場合、もはや本人同士の問題でなく、
「家」同士でもなく、都道府県同士の問題？！
- 出産・・・いつ・どこで？何人？産休は？周囲への影響は？
子育て・・・育休？保育園は？仕事との両立？？
キャリア形成・・・相手の職業を問わず、パートナーと
自分それぞれどうやっていくのか

4

私の場合・・・

- ・自治医大同級生との結婚
- ・様々な生活環境・勤務先の経験
山間へき地の地域中核病院・小病院、離島診療所
海辺の地域中核病院・東京都庁勤務・（大学病院勤務）
（私立病院勤務）
- ・様々な育児支援サービス・制度の利用
- ・様々な子育て応援人との出会い

5

義務年限中の流れ

年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
私	初期研修 都立府中病院	初期研修	後期研修	熊本 山間部へき地中核病院	熊本 沿岸部へき地病院	熊本 産休・育休	東京 山間部へき地病院	東京 離島診療所	後期研修	熊本 沿岸部へき地中核病院
夫	初期研修 熊本赤十字病院	初期研修	山間部へき地中核病院	熊本 沿岸部へき地病院	熊本 後期研修	熊本赤十字病院	東京 離島診療所	東京 離島診療所	後期研修	熊本 沿岸部へき地中核病院

6

義務年限終了～現在まで

年次	11	12	13	14	15	16：現在
私	大学病院 地域医療システム学寄付講座	大学病院 神経精神科入局	益城病院	益城病院	益城病院	益城病院
夫	大学病院 循環器内科入局・社会人大学院入学	熊本赤十字病院	熊本赤十字病院	熊本赤十字病院 社会人大学院卒業	熊本赤十字病院	熊本赤十字病院

7

義務年限中の子育て環境についての悩み

- ・毎年のように引っ越して保育園も変更？
- ・保育園にあずかってもらえない時どうする？
- ・地元を離れた場合、自分やパートナーの親・親戚からの援助は受けづらい
- ・パートナーとは同居できるか？
- ・保育環境・教育環境としてどこまで得られるか

8

公的子育て支援サービスのいろいろ

- ▶ 保育園・認定こども園など保育所
- ・病院内保育所
- ・放課後児童育成クラブ
- ・ファミリーサポートセンター
- ・病児保育・病後児保育施設
- ・乳児トワイライトステイ・ショートステイ
- ・育児短時間勤務/育児時間/保育時間など

その他の助っ人・支援

9

- ・自分やパートナーの親・親戚
- ・自分の友人・知人やよく知っているご近所さんなど
- ・へき地勤務で見ず知らずの環境であれば、勤務先に相談して人を紹介してもらうという方法も
- ・ベビーシッター
個人でお願いするか、シッター会社に依頼するか

などなど

各勤務先での育児支援利用状況

10

長男出産後

- ・熊本県庁勤務(所属)時：育児休業を約1年間取得
- ・東京都山間へき地病院勤務時：
地元の公立保育園に通園。
最初は当直時に乳幼児ショートステイ事業(乳児院宿泊)を利用。
後に元病院職員のお宅で当直時・急病時・病後を含めてお世話になることに。
- ・東京都離島診療所勤務時：
当直はないが週に数回夜間も呼び出しがあり得る。夫とともに勤務であったため夜間・緊急時は交代で。
日中急な発熱等の時は紹介してもらった住民のお宅にあずけて。

各勤務先での育児支援利用状況

11

次男出産後

- ・都庁勤務時：育児休業は取得せず。(夫とともに熊本に移動できるように)
長男は認可(公立)保育園入園できた。
次男はベビーシッターを利用。時短勤務(育児時間制度)も利用。
シッターは大手シッター会社を利用したが利用費はかなりの金額に。
- ・熊本県沿岸部地域中核病院勤務時：
長男・次男とも勤務地/住宅にほど近い公立保育園に入園。
夫も同病院入職(義務年限外)という状況で、自分自身は当直免除。
急病時数日かかる場合は、主に夫の両親に来てもらう形で。

各勤務先での育児支援利用状況

12

三男出産後

- ・大学病院勤務時：
4か月間の育児休業を取得。
復帰後は、育児時間利用等で退勤時間の繰り上げが可能な時は利用。
医局長の配慮で当直は免除で日直が月1-2回

四男出産後

- ・私立の単科精神病院勤務時(～現在まで)
3か月間の育児休業を取得。
基本は公立保育園に通わせるが、必要時、院内育児室の利用。
入職時の条件として日直免除/週末祝日の日直勤務(月1-2回)、および時間短縮勤務を交渉。

色々お世話になってきて感じた事

13

- ▶ 結局はその人・その集団との出会いなのかも...
- ▶ 子供を託す相手・場所は、ネット等からの情報や知識だけでなく、母として実際「見て、聞いて、話して」決める
- ▶ 「よき職業人・よき母」のイメージで自分を苦しめない
- ▶ 「こだわり」をほどほどにする
- ▶ 「みんなに育ててもらっている」ことを忘れない
- ▶ 自分だけではどうにもできないこともたくさんある

14

歌集『たんぽぽの白々』佐々木信子

たんぽぽの綿毛を吹いて見せてやる
いつかおまえも飛んでゆくから

機嫌のいい母でありたし
無農薬リンゴひとかけ摺りおろす朝

キャリアについての思い

15

～わたしの場合～

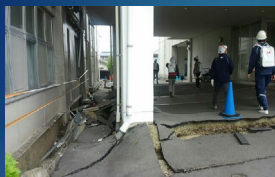
- ▶ 夫は循環器内科、私は精神科
- ▶ そもそも精神科を選じたのは...
- ▶ 様々な資格取得を推し進めるもの
- ▶ 現実には優先順位があり、思い切って後回しも必要か

熊本地震

16

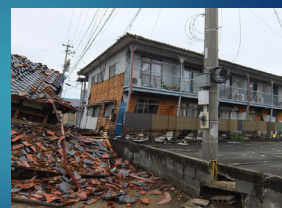
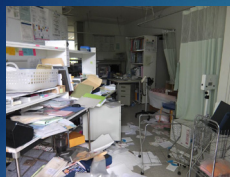
- ・平成28年4月14日21時26分、熊本県熊本地方を震央とするマグニチュード6.5の地震が発生(前震)。熊本県益城町で震度7、熊本県熊本市東区で震度6強を観測。
- ・4月16日未明の1時25分、同じ地域を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生。益城町では震度7、熊本市東区でも震度6強を再び観測。
- ・同年4月30日までに震度1以上の地震回数は4,309回

17



地震2日後の益城病院敷地内の様子

18



外來Nsステーションの様子と隣地の様子

19

本震のあった日の日中、余震が頻繁に起こって
テーブル下からなかなか出られない子供たち

20

熊本地震を経験して

- ・ 家族を守る立場、医師としての立場
- ・ 肝心の保育園・小学校は長期休みに・・・
- ・ 幼子を手を連れての避難生活
- ・ 備えておいてよかったもの
- ・ パニックになりそうな時、救ってくれたもの

21

結びに・・・

- ・ いろいろな場所ですいろいろな人にお世話になり、自分も子供たちも「みんなに育てていただいた」と思えた10年間
- ・ 心配は尽きないけれど、それは職業とか出身大学とか勤務地とかでなく、多くの人が一般的に悩み、そしてなんとか切り抜けていくものなのではないか
- ・ 私は自治医大という大学に会い、卒業したからこそその経験を本当に『宝物』とおもっています

ご清聴ありがとうございました

おばちゃん家庭医への道！

南部町国民健康保険 西伯病院 内科
紙本美菜子（鳥取31期）

自己紹介

- ▶ 鳥取県出身 過疎の町で生まれ育つ
- ▶ 学生時代 ソフトテニス部 6年間
- ▶ 31期卒業 現在医師10年目（義務年限最終年）
- ▶ 5歳、2歳の娘



医師としての道

- ▶ 自治医科大学の入試
- ▶ 自治医科大学医学部
- ▶ 平成20年3月自治医科大学卒業
- ▶ 平成20年4月～22年3月初期臨床研修医
- ▶ 平成22年4月～日南病院内科
- ▶ 平成24年9月～産休
- ▶ 平成25年4月～名和診療所
- ▶ 平成26年6月鳥取西部家庭医療専門医プログラム登録
- ▶ 平成27年3月中旬～産休
- ▶ 平成27年7月～育休
- ▶ 平成28年4月～後期研修（鳥取大学医学部附属病院）
- ▶ 平成29年4月～現職

女性としての道

- ▶ 「女性としてはどう生きたいと思いますか？」
- ▶ 勢いで付き合っただけ、修羅場が多々・・・
- ▶ ハードな生活で生理が止まる
- ▶ 夫との出会い 「いましかない」
- ▶ 遠距離結婚 不妊？ 夫婦の温度差
- ▶ 平成24年11月長女出産 里帰り＆マスカン
- ▶ 実家にバラサイト 夫との関係に悩む
- ▶ 恋愛依存症 愛着障害 実親との距離
- ▶ 子供がよく育つには？
- ▶ 夫実家横に離れを建築
- ▶ 平成27年5月次女出産
- ▶ 義両親に頼る 医大で働くママ女医たちとの出会い

19歳：専攻科（浪人）

県庁の試験官「女性としてはどう生きたいと思いますか？」

こ、これは医！？
どう答えたら合格するんだろう？
普通じゃダメなの？

「女性としても、結婚はしたいですし、可能なら子供も産んでみたいです。」

25歳：医学部6年生

ワークライフバランス講演会で先人に学ぶ

三種の神器：乾燥機能付き全自動洗濯機、食器洗い乾燥機、ロボット掃除機
相手よりも相手の親が大事！

みんなすごいね。
自分は先輩みたいになれるんだろうか・・・

26歳：初期研修医

40代女性医師「気づいたら40歳になってて～」 生理とまる→「PCOS（多嚢胞性卵巣症候群）」ぽいね～

女性医師の結婚って厳しい世界ね
てかわたし、子ども産めるのか？？

初期臨床研修医：鳥取県立中央病院 地域で必要なスキルを学ぶ
同期との会話、N sの友達との女子会での心の栄養を補給
専門医を目指す同期の動向に若干の焦り

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	外科	胸部外科	救急	産科							心臓内科	神経内科
2年目	小児科	産婦人科	整形外科	地域医療	精神科	心臓内科	神経内科					内科

28歳：医師3年目

日南町国民健康保険日南病院内科 夫（高校教諭）と別居婚

院長の祝辞「夫婦円満の秘訣は、一緒にいないことですby白洲次郎」ザザザ！
義母の決意「みなこちゃんのことは三女だと思事にする。協力できることはなんでもするからしっかり働きなさい」

さみしいさみしい・・・
一緒に住みたい赤ちゃんほしい

町は大きなホスピタル



エコー、カメラ（上部・下部）、外来、入院、当直、待機
医師住宅：5LDK（一人暮らし）
夫とは2週間に1回会えるかどうか
一人で夫実家に遊びに行くことも

30歳：医師5年目

県庁「先生も県職員なので、産前8週、産後8週しっかり休んでくださいね」

県出身者1例目、
旦那のいないようにしなければ。

同僚先輩医師「『おまえんこの女医、産休なんかとりやがって』て教授に言われたわ」

悪気はないんだろけど、それ、いまわたしに言う！？でも迷惑かけるのは真実。

「そうですね。秋から先生の週1研修がつぶれてしまっただけに本当に申し訳ないです。でもなんだかんだでいつも気遣ってくださって、ありがとうございます♡」

31歳：医師6年目

産後5か月で仕事復帰：大山町国民健康保険名和診療所
実家にパラサイト

＜医師として＞

- ▶ 8：30～ 診察開始
- 外来、検診、人間ドック
- ▶ 12：00～13：00 昼休憩
- ▶ 13：30～ 午後診察
- 訪問診療、予防接種、学校医、産業医
- ▶ 17：00 診察終了

管理職の立場
24時間オンコール：夜間・休日診療依頼ときどき
→いじいばあは呼び出しor実家にあずけて出かける

＜母・妻として＞

- ▶ 8：00 子供迎えまたは送り
- ▶ 12：00～ 医師住宅に帰り子供
の授乳&昼食（ばあば）
- ▶ 17：30～18：00 実家へ
- 夕食おかずもらって医師住宅へ
- ▶ 19：00～20：00 夫婦宅、食事

在宅看取りの患者さんがいるとき
→実家に子供と寝泊りして待機



33歳：医師8年目

H27.3.13-2度目の産休・育休

- ▶ 診療所派遣中の産休→県に身分引き上げ（=退職、交代）
- ▶ 産前6週ものつもり・・・県「いえいえ、産前8週から休んでください」
- ▶ 残り3週間の代診をどうするか？
- ▶ ・町内他の国保診療所医師→火・木・金
- ▶ ・鳥取大学地域医学講座→月
- ▶ ・土曜休診（もともと隔週なので1日休み）
- ▶ 保健課、スタッフ、患者さんの理解
- ▶ 次年度末までしっかり休んでみよう！



専門医っていまいちしっくりこない・・・
原点はやっぱり診療所のお医者さん。
このままのスタンスで診療を続けたい。

これまでの経験を活かせる分野・・・
これから勉強していける分野・・・

鳥取で地域医療/総合診療をきちんと学び実践
していけるところはないのか？

・・・鳥取大学地域医学講座の
家庭医療専門医プログラム開始！

まなび、ひろがり、つながっていく。
鳥取大学医学部
地域医療学講座

家庭医療専門医 研修目標

1. 家庭医療専門医を特徴づける能力
 - (ア) 患者中心・家族志向の医療を提供する能力
 - (イ) 包括的で継続的、かつ効率的な医療を提供する能力
 - (ウ) 地域・コミュニティをケアする能力
2. 全ての医師が備える能力
 - (ア) 診療に関する一般的な能力と患者とのコミュニケーション
 - (イ) プロフェッショナリズム
 - (ウ) 組織・制度・運営に関する能力
3. 教育/研究
4. 家庭医療専門医が持つ医学的な知識と技術
 - (ア) 個人への健康増進と疾病予防
 - (イ) 幼小児・思春期のケア
 - (ウ) 高齢者のケア
 - (エ) 終末期のケア
 - (オ) 女性の健康問題・男性の健康問題
 - (カ) リハビリテーション
 - (キ) メンタルヘルス
 - (ク) 救急医療
 - (ケ) 臓器別の健康問題① 心血管系② 呼吸器系③ 消化器系④ 代謝内分泌・血液系⑤ 神経系⑥ 腎・泌尿器系⑦ リウマチ性・筋骨格系⑧ 皮膚⑨ 耳鼻咽喉⑩ 眼

自治医大で学んだこと
地域で実践していること
そのものが評価され、資格として認められるんだ。
義務内でも専門医が取れるかな？

総合診療 専門医研修	プログラム全体の研修期間		総合診療専門医研修 II 6～12月
	12月	3月	
研修期間	6月	3月	6月
研修科目	内科	小児科	救急科
	6月	3月	3月

34歳：医師9年目

次女の産育休後、後期研修で仕事復帰
今度は義父母にパラサイト
鳥取大学医学部附属病院

- ▶ 産育休1年後の復帰研修も兼ねて
- ▶ 家庭医療専門医研修プログラム：領域別研修（救急3か月、内科6か月、小児科3か月）
- ▶ 鳥取大学医学部地域医学講座（プログラム主催）に間借り、指導医の先生方と地域医療について学ぶ
- ▶ 次女（11か月～）は鳥大附属病院 院内保育所
- ▶ 研修先の診療科で女性医師の先生たちと交流を深める

- ▶ 5：30 起床、朝食準備
- ▶ 6：30 朝食、子供の準備
- ▶ 7：40 出発
- ▶ 8：00 次女を院内保育所へ
- ▶ 8：30～17：50 院内で研修
- ▶ 18：00 次女の迎え
- ▶ 18：30 義母の完璧な夕食をいただく
- ▶ 19：30 長女と入浴（次女はほぼ義父）
- ▶ 20：30 子供寝かしつけ

35歳（仮）医師10年目

義務は残り一年！
南部町国民健康保険西伯病院内科

- ▶ 200床（内科100、精神科100）
- ▶ 内科医師（4人中の1人）
- ▶ 入院主治医、当直、内科待機
- ▶ 腹部エコー、内視鏡（上部、下部）
- ▶ N S T 委員会
- ▶ 次女は院内保育所へ
- ▶ 残業が予想されたら義父にコール
- ▶ 当直当日の迎えは義父、翌日は次女は保育所お休みして義父母宅
- ▶ 待機で夫不在時は母屋にお泊り

- ▶ 4：30 起床 ちよっと勉強
- ▶ 5：30 身支度、朝食準備
- ▶ 6：30 子供たち起床、朝食
- ▶ 7：00 夫出発
- ▶ 7：30 出発（長女は義父母宅）
- ▶ 8：30 院内業務
- ▶ 18：00 次女迎え、帰路
- ▶ 18：30～ 義母の完璧な夕食
- ▶ 19：30 子供と入浴
- ▶ 20：30～21：00 就寝



義両親のプロフェッショナルな子育て
パラサイトがとまらない・・・

じじいばあ様の協力

- ▶ 平日の夕食（ときに休日も）
- ▶ 長女の送り迎え、行事参加
- ▶ 残業、当直日の次女の迎え
- ▶ ゴミ出し（家の外からごみ置き場まで）
- ▶ クリーニング
- ▶ 子どもの受診
- ▶ 子どものお風呂
- ▶ 生協の購入まとめ
- ▶ 「お父ちゃん、お母ちゃんのいうことが正しい」と方針に沿ってしつけてくれる

自分がしていること

- ▶ 食費換算で御礼（2回/年、ボーナス時）
- ▶ 大型家電購入時は金銭的協力を申し出る（断られることもある）
- ▶ 義母の月一的女子会は死守する
- ▶ 実家の野菜、魚を差し入れ
- ▶ 夫の高校の応援日程は死守する
- ▶ 父の日、母の日、誕生日
- ▶ 「ありがとうございます」を忘れない



妊娠・出産・育児について

- ▶ 家族計画はオープンにしておく（周囲の状況みて）
- ▶ 産むなら赴任先2年目以降？（周りの心象）
- ▶ 年度区切りで休めるようなタイミング（人事への支障を最小限に）
- ▶ 周囲への感謝の言葉を忘れない

- ▶ 子どもの精神負担について常に気に掛ける
- ▶ パラサイト→子供としっかり向き合うため
- ▶ 週に2回以上の勉強会・飲み会は避ける



おばちゃん家庭医への道

- ▶ 「自分の道をいく」「自分の感性を大切に」
- ▶ すごなくていい
- ▶ 恥ずかしいことなんて、そんなにない
- ▶ 白衣を着ないとわからないくらいがいい
- ▶ 困ったら他人に頼る、他医に訊く
- ▶ 真のアウトカムは何か！？
- ▶ 心身ともに無理をしない
- ▶ すべては家族と患者のため
- ▶ 精神に波がある人→自己認知のススメ
- ▶ 仕事も家庭もゆるく続けていきたい

17

ご清聴ありがとうございました！

18

2017.6.11
WLB 2017 in Jichi

これだから 離島医療はやめられない！

隠岐病院 加藤一朗

★Facebookしてますので友達リクエスト下さい

本日の話すこと

- * 自己紹介
- * 隠岐の島の紹介
- * 私のwork life balance
- * シミュレーション教育
- * ウイメンズヘルスケア
- * 全国離島周産期の状況
- * 病院前周産期救護
- * 離島医療のABC



自己紹介

島根県生まれの島根県育ち
H10年自治医科大学卒業
初期研修(ローテート)2年
→地域中核病院(隠岐病院)内科2年
→診療所プライマリケア医2年
プライマリケアにどっぷりはまるとともに
ICLS等シミュレーション教育とNGOの勉強にカンボジアへ
→総合病院総合診療科1年



ある日突然

隠岐で産婦人科医が不在に！



妻(助産師)から
「あなたが産婦人科医にならないと離婚するわよ！」

まんがコウノドリ



離島のお産に興味があれば是非隠岐病院へ

隠岐諸島



島根半島の北40～80kmの日本海に浮かぶ群島
4つの有人島と180余りの島からなる人口約21000人

世界隠岐ジオパーク認定！



Work life balance



仕事と生活の調和 ➡ Happy&Enjoy

家族



大のDisney好き



10

キャラ弁&キャラ鍋



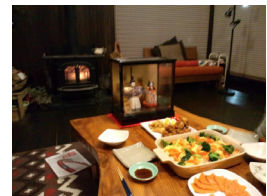
Facebook いいね192件



いいね167件

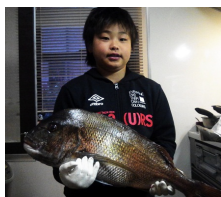
11

我が家



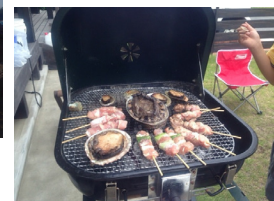
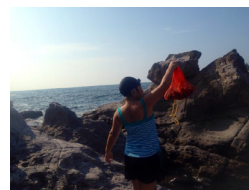
12

海の幸



13

とったぞー！



14

自分



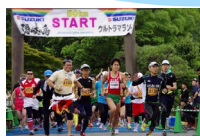
15

ついにボート購入！



16

隠岐の島ウルトラマラソン



17

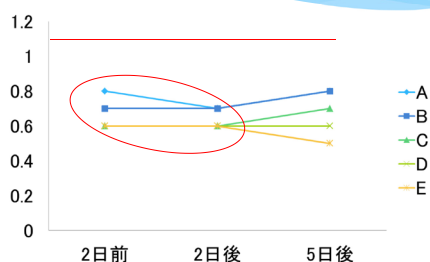
ウルトラマラソンがどれほど腎機能に影響を及ぼすか

隠岐ウルトラマラソン50kmに出場した選手5名(男性2名A・B、女性3名C・D・E)を被験者とし、大会2日前・2日後・5日後の計3回以下4項目について検査を行った。

GOT・CK・BUN・Cre・シスタチンC

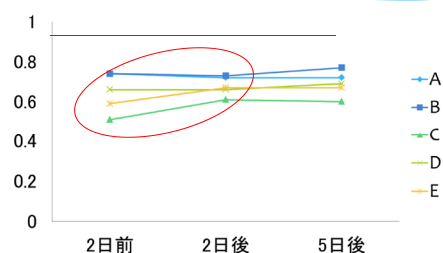
18

Cre (基準値上限1.1)



19

シスタチンC (基準値上限0.95)

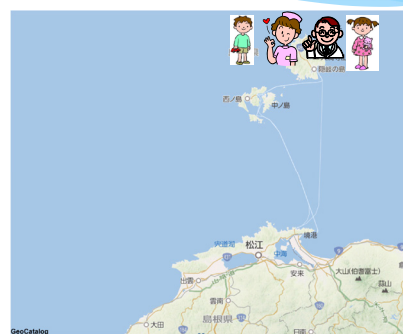


20

とあるの私の一日

- 5:00 起床
- 5:00~6:00 勉強(論文抄読など)
- 6:00~6:30 朝食準備
- 6:30~7:00 子供たちと朝食
- 7:00~7:30 朝食片付け・洗濯
- 7:30~18:00 お仕事
- 18:00~19:00 夕食準備しながら娘の宿題の手伝い
- 19:00~20:00 子供たちと夕食・家族団らん
- 20:00~21:00 プール
- 21:00 娘と一緒に就寝

21



GeoCatalog

自治医科大学医学部同窓会 東日本大震災支援プロジェクト

- * 平成23年4月8日~15日、この岩手県立釜石病院を活動拠点とし、避難所巡回診療と同病院ER支援を行った
- * 病床数:272床、医師数22名(うち自治医大卒業生7名)の急性期病院かつ地域の中核病院
- * 地域医療に従事し全人的な医療を行っているプライマリケア医こそ、超急性期を過ぎた急性期、慢性期の災害現場で十分活動の場があると考えられた



23



24



とある私の一週間

	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)
AM	産婦人科 外来	内科救急	五箇診療所 外来	産婦人科 外来	健診	PTA 研修会	だいまんじ トラン
PM	外科手術 ×2	巡回診療	外科手術	予防接種 中学校授業	婦人科手術		
夜	研修医 歓迎会		分娩			医師会 勉強会	懇親会

忙しいときは外科緊急手術+隣の島の産婦人科外来+Dr.カー+緊急帝王切開など

26

外科手術の手伝い

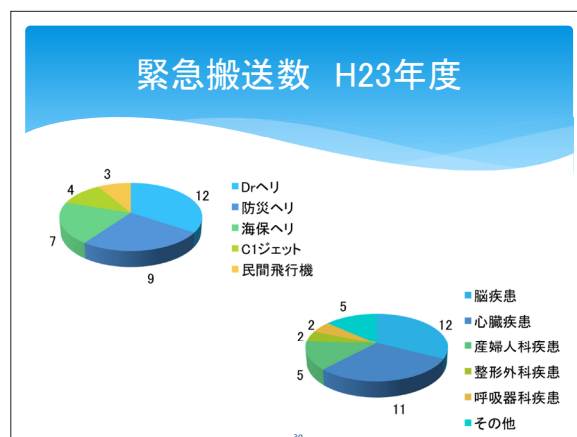
- * 常勤外科医1名
→ 麻酔+第1助手担当
- * 手術総数456 (平成19年4月～平成23年11月)
胃癌33 大腸癌44 乳癌11 肝癌8 等
胆石72 イレウス44
ヘルニア72 虫垂炎53 等

27

とある週の担当入院患者

- * 産後
- * 帝王切開術後
- * 子宮筋腫核出後
- * 脳梗塞
- * 肺炎
- * 尿路感染
- * 肺炎+尿路感染

28



【症例1】

20歳 男性
深夜自損事故(シートベルトなし)により当院救急外来に救急車で搬送された
受診時(1:39)BP107/57 HR91 SpO₂98%(O₂10L)
GCS E4V5M6
FAST 肝・脾周囲のEFS+

31

【症例1 CT】

32

【症例1 経過】

CT撮影後BP73/44

当院での開腹手術は輸血の血液不足から断念し、本土への緊急搬送を決断。

天候悪化のため海上保安庁飛行機が島に着陸するまでに、RBC A型4単位+O型4単位、FFPAB6単位の輸血が終了。



最終的には私の全血400ccを輸血しながら本土へ緊急搬送した。

33

【症例2 海難事故】

12月某日 海上時化未明

25名乗組員の中国船が座礁

3人行方不明者、7名負傷者と病院へ連絡あり



ピックアップDrカーにて現場へ

34

【症例2 トリアージ】

- * 赤: 第6頸椎骨折、眼窩骨折
- * 赤: 頭部裂創、全身擦過傷、低体温、肺炎
→ 当院収容後、自衛隊C1ジェット機にて本土へ搬送
- * 黄: 四肢擦過創、前胸部、腹部擦過創
- * 黄: 左前額部裂創、左胸部、両膝関節、右下肢擦過傷
→ 当院入院
- * 緑: 擦過傷8人
→ 当院搬送 外来診察のみ



35

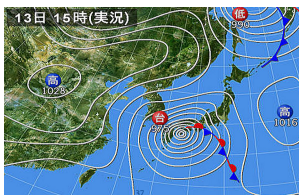
【症例3】

- * 37歳 初産婦 身長165.0cm 体重89.6kg BMI32.9
- * 妊娠初期に妊娠糖尿病と診断
- * 受診前々日より心窩部痛出現し、受診前日より食事摂取できないため、妊娠24週0日に当院救急外来を受診した
- * 受診時BP165/92mmHg、心窩部に圧痛を認めた
- * L/D: Plt12.6万/ μ l、AST187IU/l、ALT299IU/l、LDH424IU/l。超音波: 胎児推定体重363g

36

【症例3 診断→本土へ緊急搬送】

- * 重症妊娠高血圧症候群、HELLP症候群と診断
- * 本土の総合周産期母子医療センターへ緊急搬送を決断



37

【症例3 搬送断念後】

- * 台風が通過するまで入院
- * 入院後血圧150台/90台、心窩部痛軽減
- * 翌朝L/D: Plt 8.0(←12.6)万/ μ l AST 496(←187) IU/l ALT 848(←299) IU/l LDH 598(←424) IU/l
- * 8時30分 島根県立中央病院へDrへリを要請
- * 10時14分 島根県立中央病院に到着 BP164/105
- * 13時23分 緊急帝王切開術施行 出生体重316g AP1/5点

38



平成28年10月19日
山陰中央新報掲載

すぐに島根県立中央病院
(出雲市姫原4丁目)に送
る必要があったが台風に見舞われ、隠岐で足止めを強いられた。翌14日ドクターヘリで搬送。

39

島の医療人育成センター



40

医学生実習



41



シミュレーション教育

43

ICLS



44

JPTEC(病院前外傷救護)



45

ALSO

Advanced Life Support in Obstetrics

- * 米国家産婦人科医二人が1991年開発
- * 産科救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コース
- * 世界63カ国以上で採用、16万人以上が受講し、我が国では約6,000人が受講済み
- * 少人数によるワークショップを重視
- * 講義+WS: 補助経膈分娩、肩甲難産、産後大出血等
- * 講義+症例検討: 分娩中の胎児監視、妊婦の内科合併症

46

NCPR(新生児蘇生)



他に以下のインストラクター

- J-MELS
- CVC
- SED
- BBQ

47

ウイメンズヘルスケア

48

結果① 分娩数・産婦人科医数

- * 分娩を中止した施設がある島:4島/15島
2島は島唯一の分娩施設が中止(1島は継続開設)
- * 分娩数:35～600件/施設
- * 分娩数の増減:増加3 減少5 不変10
- * 産婦人科常勤医数:1～4人/施設
126.8件/産婦人科医1人
常勤医1人体制9施設(分娩数35～249)/18施設
1施設は1週間～1か月交代の非常勤医

結果② 助産師・小児科医

- * 助産師数:1~17人/施設
12施設が5人以下
- * 助産師外来:6/19施設
1施設は、唯一の産婦人科医退職に伴い、助産師外来を実施し、保健指導を通し早めの対応ができるようになった
- * 院内助産所:0/19施設
- * 小児科常勤医不在:4施設/19施設

結果③ 緊急搬送

- * 搬送手段: 自衛隊ヘリ、Drヘリ、防災ヘリ、民間機等
- * 緊急搬送数: 0~10件/年/施設 13施設が3~5件
- * 緊急搬送の問題点:
 - ・天候に左右される 8施設
 - ・要請してから搬送までに時間がかかる 3施設
 - ・生活圏とは違う病院へ搬送 3施設



結果④ 住民・行政の理解

- * 住民・行政の理解が得られたか？

「はい」 4施設

「いいえ」 6施設

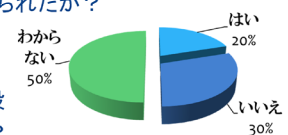
「わからない」 10施設

- * 周産期状況の変化は？

「良くなった」 6施設→手当2

「悪くなった」 6施設→産婦人科医減少4

「変わりなし」 7施設



結果⑤ 問題点

- ・飛び込み分娩 5施設
- ・自宅出産 4施設
- ・妊婦健診未受診
- ・自己中心的な妊婦が増えている



都会だけの問題だけでなく、
島だから自然に生きたい？



考察

- * 産婦人科医減少に伴いお産の場が制限される全国の中で、この3年間でより一層離島の周産期医療が危機的状況に立たされていることが分かった。
- * なんとか離島で分娩を継続するためには、島民・行政の理解・協力のもと、助産師らとより一層協働する必要があると考える。

へき地・離島周産期フォーラム

今一度みんなで考えよう！
八木地・難鳥周産期フォーラム

随伴の魚

隠岐の島

「うーんみんなで、政治・経済問題の解決を模索してみませんか？
 愛知の島田川に産科医療集約の危機となった産婦人科、母子からはもちろん、
 日本全国産科からパノリストが集まり、産出数の問題と解決を話し合ってもらいます。」

日時：8月5日（日）9:00 開場

9:30~12:00
場所：聴岐の森司

対象：隠岐の島県民全ての方

周産期医療に関わる全ての方

入場無料

總發行所：總發所 東京三井物產
 支店：東京市牛久保區牛久保大塚 中野和子
 東京支店：東京市立大塚町 中野和子

大船町 船場町 船場町 船場町
 船場町 船場町 船場町 船場町
 船場町 船場町 船場町 船場町

問い合わせ先：国産の医療を推進する会事務局 事務局 事務局 kenshoku-hospital.com TEL 03(57)2-0100

1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2044, 2045, 2046, 2047, 2048, 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2058, 2059, 2060, 2061, 2062, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2068, 2069, 2070, 2071, 2072, 2073, 2074, 2075, 2076, 2077, 2078, 2079, 2080, 2081, 2082, 2083, 2084, 2085, 2086, 2087, 2088, 2089, 2090, 2091, 2092, 2093, 2094, 2095, 2096, 2097, 2098, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2104, 2105, 2106, 2107, 2108, 2109, 2110, 2111, 2112, 2113, 2114, 2115, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2124, 2125, 2126, 2127, 2128, 2129, 2130, 2131, 2132, 2133, 2134, 2135, 2136, 2137, 2138, 2139, 2140, 2141, 2142, 2143, 2144, 2145, 2146, 2147, 2148, 2149, 2150, 2151, 2152, 2153, 2154, 2155, 2156, 2157, 2158, 2159, 2160, 2161, 2162, 2163, 2164, 2165, 2166, 2167, 2168, 2169, 2170, 2171, 2172, 2173, 2174, 2175, 2176, 2177, 2178, 2179, 2180, 2181, 2182, 2183, 2184, 2185, 2186, 2187, 2188, 2189, 2190, 2191, 2192, 2193, 2194, 2195, 2196, 2197, 2198, 2199, 2200, 2201, 2202, 2203, 2204, 2205, 2206, 2207, 2208, 2209, 2210, 2211, 2212, 2213, 2214, 2215, 2216, 2217, 2218, 2219, 2220, 2221, 2222, 2223, 2224, 2225, 2226, 2227, 2228, 2229, 2230, 2231, 2232, 2233, 2234, 2235, 2236, 2237, 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2246, 2247, 2248, 2249, 2250, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2257, 2258, 2259, 2260, 2261, 2262, 2263, 2264, 2265, 2266, 2267, 2268, 2269, 2270, 2271, 2272, 2273, 2274, 2275, 2276, 2277, 2278, 2279, 2280, 2281, 2282, 2283, 2284, 2285, 2286, 2287, 2288, 2289, 2290, 2291, 2292, 2293, 2294, 2295, 2296, 2297, 2298, 2299, 2300, 2301, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2312, 2313, 2314, 2315, 2316, 2317, 2318, 2319, 2320, 2321, 2322, 2323, 2324, 2325, 2326, 2327, 2328, 2329, 2330, 2331, 2332, 2333, 2334, 2335, 2336, 2337, 2338, 2339, 2340, 2341, 2342, 2343, 2344, 2345, 2346, 2347, 2348, 2349, 2350, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2366, 2367, 2368, 2369, 2370, 2371, 2372, 2373, 2374, 2375, 2376, 2377, 2378, 2379, 2380, 2381, 2382, 2383, 2384, 2385, 2386, 2387, 2388, 2389, 2390, 2391, 2392, 2393, 2394, 2395, 2396, 2397, 2398, 2399, 2400, 2401, 2402, 2403, 2404, 2405, 2406, 2407, 2408, 2409, 2410, 2411, 2412, 2413, 2414, 2415, 2416, 2417, 2418, 2419, 2420, 2421, 2422, 2423, 2424, 2425, 2426, 2427, 2428, 2429, 2430, 2431, 2432, 2433, 2434, 2435, 2436, 2437, 2438, 2439, 2440, 2441, 2442, 2443, 2444, 2445, 2446, 2447, 2448, 2449, 2450, 2451, 2452, 2453, 2454, 2455, 2456, 2457, 2458, 2459, 2460, 2461, 2462, 2463, 2464, 2465, 2466, 2467, 2468, 2469, 2470, 2471, 2472, 2473, 2474, 2475, 2476, 2477, 2478, 2479, 2480, 2481, 2482, 2483, 2484, 2485, 2486, 2487, 2488, 2489, 2490, 2491, 2492, 2493, 2494, 2495, 2496, 2497, 2498, 2499, 2500, 2501, 2502, 2503, 2504, 2505, 2506, 2507, 2508, 2509, 2510, 2511, 2512, 2513, 2514, 2515, 2516, 2517, 2518, 2519, 2520, 2521, 2522, 2523, 2524, 2525, 2526, 2527, 2528, 2529, 2530, 2531, 2532, 2533, 2534, 2535, 2536, 2537, 2538, 2539, 2540, 2541, 2542, 2543, 2544, 2545, 2546, 2547, 2548, 2549, 2550, 2551, 2552, 2553, 2554, 2555, 2556, 2557, 2558, 2559, 2560, 2561, 2562, 2563, 2564, 2565, 2566, 2567, 2568, 2569, 2570, 2571, 2572, 2573, 2574, 2575, 2576, 2577, 2578, 2579, 2580, 2581, 2582, 2583, 2584, 2585, 2586, 2587, 2588, 2589, 2590, 2591, 2592, 2593, 2594, 2595, 2596, 2597, 2598, 2599, 2600, 2601, 2602, 2603, 2604, 2605, 2606, 2607, 2608, 2609, 2610, 2611, 2612, 2613, 2614, 2615, 2616, 2617, 2618, 2619, 2620, 2621, 2622, 2623, 2624, 2625, 2626, 2627, 2628, 2629, 2630, 2631, 2632, 2633, 2634, 2635, 2636, 2637, 2638, 2639, 2640, 2641, 2642, 2643, 2644, 2645, 2646, 2647, 2648, 2649, 2650, 2651, 2652, 2653, 2654, 2655, 2656, 2657, 2658, 2659, 2660, 2661, 2662, 2663, 2664, 2665, 2666, 2667, 2668, 2669, 2670, 2671, 2672, 2673, 2674, 2675, 2676, 2677, 2678, 2679, 2680, 26

パネリスト：北は北海道～
南は鹿児島島の島々から9名
インターネットで全国(世界?)中継
Facebookを用いて意見を募集
会場参加者は島内外で150名

病院前周産期救護アンケート

- ・全国の消防本部802本部に対して病院前周産期救護の実態（調査対象期間2010年1月～12月）についてのアンケート用紙を郵送し、返信用封筒を用いて684消防本部より回収した（回収率85.3%）
- ・集計分析：Excelを使用し、単純集計を用いた。
- ・各消防本部が特定されないよう倫理的配慮にもとづき解析した。

結果① 分娩事例

341消防本部(49.85%)において分娩事例あり
 総計**743**件/年
 到着時にすでに新生児が生まれていた事例**550**件
 現場で新生児を取り上げた事例**42**件
 救急車内で新生児を取り上げた事例**124**件

母体出血多量でショックに陥った例**10**件
 肩甲難産で困った例**1**件 骨盤位で困った例**2**件

65

本当の分娩数は？

分娩数を統計上出せない本部あり(特に大規模消防)



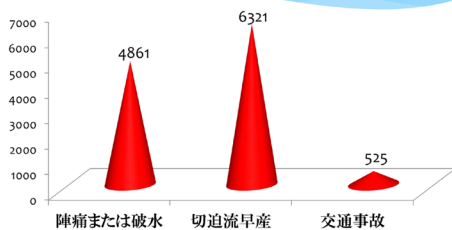
分娩数・管轄人口ともに把握している消防本部のみ抽出したところ、分娩数715件、人口74,030,784人



日本総人口128,056,026人(2010年)から換算すると
 病院前分娩数は年間**1237**件(およそ1日3.4件)

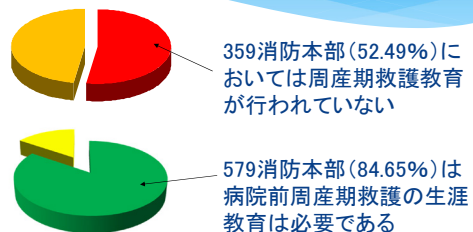
66

結果② 妊婦搬送事例



67

結果③ 病院前周産期救護教育



68

考察

- * 周産期救護は決して少ない事例ではなく、また緊急度・重症度が高いため、今後標準的な教育コースが必要不可欠である。
- * しかしながら、地域MC主催の生涯教育の一環としてのコースが望ましいという点を考察すると標準化+地域性に合った教育プログラムが必要である。
- * 周産期救急に対応するためには救急救命士を含め産婦人科医・助産師以外の産科プロバイダーの養成が急務である。

69

隠岐BLSOコースプログラム

09:00～10:00 「妊婦の評価」 講義+WS
 10:10～11:10 「分娩介助」 講義+WS
 11:20～12:20 「新生児蘇生」 講義+WS
 13:00～13:30 「救急車車内分娩」 WS
 13:30～14:30 「産後大出血・妊婦蘇生」 講義+WS
 14:40～15:40 シナリオ・手技練習
 16:00～17:00 筆記テスト・実技テスト

70

隠岐BLSO①



隠岐BLSO②



臨床救急医学会BLSO

2015年6月6日 富山



73

へき地離島救急医療学会学術集会 BLSO



へき地離島救急医療学会学術集会

会期: 平成28年10月22日

会場: 島根県立中央病院
(島根県出雲市)

へき地離島周産期フォーラム
+BLSO同時開催

74

Take Home Message

離島医療のABC

- *A: Act locally, think globally
- *B: Balance
- *C: Communication & collaboration
- *D: Daily work
- *E: Enjoy

75



76

第2部 懇談会

挨拶

高本 和幸 卒後指導部長

午前中に引き続き、午後のセッションにも多数ご参加いただき、ありがとうございます。

ご講演いただいた3人の卒業生の先生方には、非常に貴重な内容のプレゼンテーションをありがとうございました。等身大で、かつ迫力のある、実体験をふまえた講演であり、また、参加の皆さんがそれぞれ自分に置き換えてインスパイアされるような具体的な話が聞けたのではないかと思います。

ワークライフバランスのあり方には多様性があり、ワークとライフはトレードオフの関係、すなわち「あちらを立てればこちらが立たず」ではなく、調和したり、互いに補い合ったりすることができるのではないかと考えているところです。

そのようなことも念頭に置きながら、午前中の演者の三者三様の講演も基調にしつつ、有意義なディスカッションをしていただくことを期待しています。



懇談会/情報交換会

7グループに分かれて、35分、25分で時間を区切り、卒業生に各テーブルをローテーションしていただき、卒業生と在学生による情報交換を行いました。

自身の出身県以外の卒業生と話ができる機会ということもあり、あちらこちらで卒業生を囲み和やかな雰囲気の中で懇談会は行われました。



【グループワークについて：チューターよりコメント】

松原優里医師（京都府 28 期）

自分自身が3人の育児中であり、仕事と家庭の両立をどうやればよいのか答えのないまま悩んでいるところです。

自分自身が家庭で悩んでいることが、実は決して無駄なことは一つもなく、患者さんに対しての関わりや声掛けなどの全てが繋がっていくのかと皆さんの話を聞きながら考えていました。

秋根大医師（茨城県 29 期）

本日、自主的に参加してくれた男子学生に向けて話をさせていただきたいと思います。

私自身も、二人の子育てをされていて、特に第一子の時には子育てに悩んでいました。自分の中に父親としての理想像がありこうしなければという思いが強くありました。先程の吉村先生の講演で、俵万智さんの短歌「機嫌のいい母になりたい～」が紹介されていて、私もまさにそういう気分でした。インターネットで検索し、NPO 法人のファザーリングジャパンのキャッチフレーズ「いい父親でなくてもいい、笑っている父親になろう」にたどり着き、年に数回参加しフェイスブックなどで情報を得ています。

男性諸君にお伝えしたいが、今の時代、女性も大変ですが男性も大変ということです。男性はめちゃくちゃ大変です。

男性はファザーリングジャパンのいうところの5段活用で変化しなければいけません。

- ①イクメン：皆が知るところ。
- ②イキメン：地域の「域」。PTA 会長などで輪を広げていく。
- ③イクボス：上司の理解がないとイクメンにはなれない。

日本中で流行っており、イクボスを増やすプロジェクトを行っている。

- ④イクジイ：じいじになっても弱っている余裕はない。
- ⑤ケアメン：最後には介護（の担い手になること）が必要。

男性も大変な時代ですので、参加した男子学生は今回情報を得ることができて良かったと思います。大変な男性医師に対して、そのサポートもしていただきたいと思います。皆さん一緒に頑張りましょう。



<参加した学生からのコメント>

静岡県 3 年 川井智代さん

卒後のことをあまり意識せず日々を気楽に過ごしている私ですが、先輩方の「生き様」を知り、将来の具体的なビジョンを垣間見ることができる、という意味でワークライフバランスの会はよいスパイスになっています。先輩方と直接お話しできる、という点でもとても貴重な機会です。今回、様々な困難を一つずつ乗り越えてきた先輩方に対し、どうしたらそんなに精神的に強くいられるのでしょうか、とお伺いしたところ、「直面した当時は慌てふためいたけれど、どうにかなった、ということの方が多い。肩ひじを張って構えていなくても大丈夫、どうにかなる！」とおっしゃってくださったことが印象に残っています。

<講演いただいた演者からのコメント>

紙本美菜子先生

今日をご招待をいただきありがとうございました。

久しぶりに大学に来て若い学生や先輩方、先生方にお会いできて楽しい時間を過ごすことができました。

今回は個人的な話で時効だと思ひ話をさせていただきましたが、いろいろなことを学生達も経験されていると思うので、それを全部自分の糧にするつもりで頑張っていただけだと思います。私も引き続き地元で頑張りたいと思います。

吉村裕子先生

今日は久しぶりに大学に来るチャンスをいただき、本当にありがとうございました。

学生の皆さん優秀で、こんなに早くからいろいろなことを考えているのかと改めて驚いて今お話を伺っておりました。

ノーブランで生きてきた自分としては、案ずるより産むが易しではないけれど、あまり考え過ぎずに、でも困ったときには困っているとか、心配、不安だということを発信すれば、必ずどこかで少しずつでも救いの手が差し伸べられることもあるし、光も見えてきて、必ず道が開けてくると思いますので、あまり心配し過ぎずに頑張ってください。

加藤一朗先生

本当に今日はありがとうございました。

私は臨床講師なので、また自治医大に来る機会があると思いますのでよろしくお願いします。

昨夜、話をしましたが、なぜこの会は夜ではなかったのかと、昼間に講演会をやり、その夜懇談会にしてはいかがでしょうか。

秋根先生から男子学生に向けて話がありましたので、私は女子学生に話をします。

数年前のプライマリケア学会において、女子学生が「将来理解のあるパートナーを見つけ

るにはどうしたらよいか」と発表していました。答えは、義母も一生懸命仕事をしていると自分の仕事を理解してもらえとのことでした。

ちなみに、私は実母が看護師で、母が私の卒業時に言った言葉は、「看護師には逆らうなよ」ということでした。それを忠実に守り、妻（助産師）には逆らっていません。妻と実母はとても仲良く一緒に飲みに行ったりしています。そんなパートナーを見つけてください。

【全体集合写真】



4. アンケート結果報告

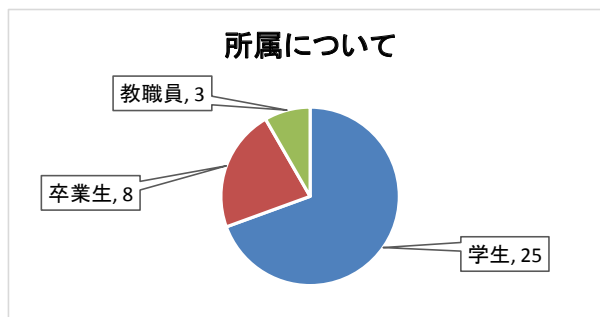
当日は、お忙しいところご出席いただきまして、また、アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。ここにその結果を報告いたします。

	講演会参加者	懇談会参加者
学生	35	31
卒業生・教職員	24	17
計	59	48

I. 所属について

学生	25
卒業生	8
教職員	3
計	36

(アンケート回収率59%)



学年別内訳

6年	4
5年	5
4年	4
3年	5
2年	3
1年	4
計	25

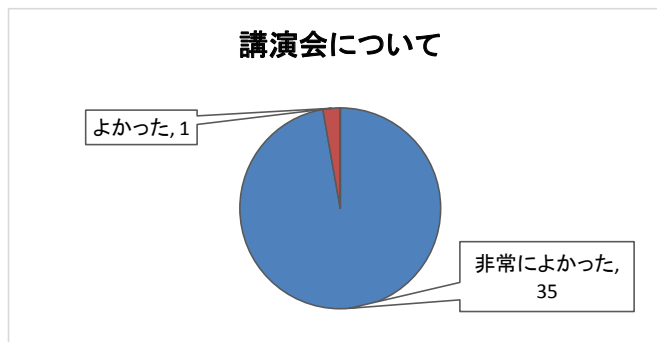
学生男女比

男	5
女	20
不明	0
計	25

II. 講演会について

(1) 講演会はいかがでしたか

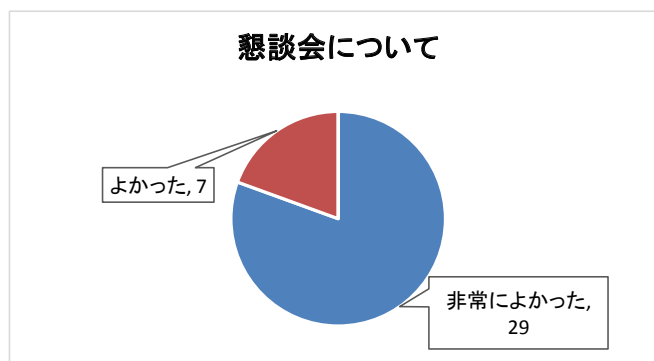
非常によかった	35
よかった	1
ふつう	0
あまりよくなかった	0
非常によくなかった	0
参加していない	0
計	36



III. 懇談会について

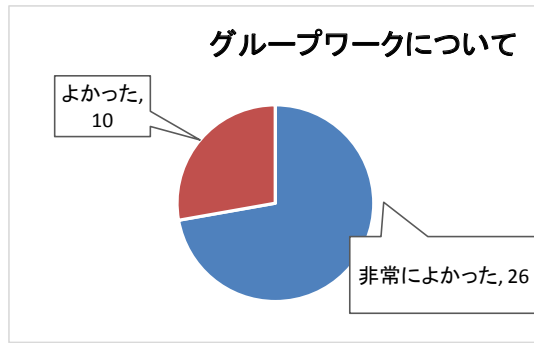
(1) 懇談会はいかがでしたか

非常によかった	29
よかった	7
ふつう	0
あまりよくなかった	0
非常によくなかった	0
参加していない	0
未記入	0
計	36



(2) グループワークはいかがでしたか

非常によかった	26
よかった	10
ふつう	0
あまりよくなかった	0
非常によくなかった	0
参加していない	0
未記入	0
計	36



Ⅲ. 講演会・懇談会感想

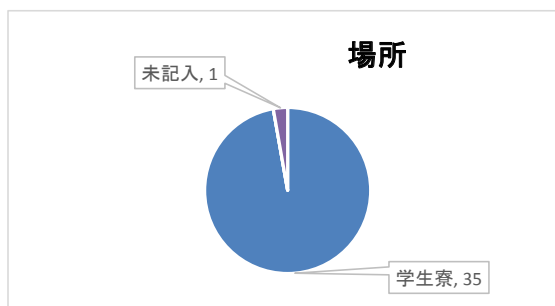
(1) 講演会、グループワークを通しての感想はいかがですか

- ・卒業後のことについて、いろいろ詳しく聞けて、具体的なイメージにつながりとても良かったです。
- ・医師として仕事一筋のイメージがあったが、卒業生のみなさんが仕事と家庭を両立させていることに驚いた。
- ・講演会: すごくすごく面白かったです。先生方のご講演が本当に楽しく聞けて良かったです。正直、今回はワークライフバランスとかよく分からないまま参加したにすぎないのですが、想像以上に発見があってびっくりしました。
- ・懇談会: 先輩方や先生とお話しできて良かったです。男子が少なくて、1年生も少なくて緊張しましたが、意外と話せて楽しかったです！！
- ・普通に学校生活を送っていたらお話しすることもできない方々と話したり、話を聞かせてもらえてとてもためになりました。
- ・実際に悩み等もありながらも、ご活躍されている先生方のお話を聞かせていただき、有意義な時間でした。たくさんの生き方があって、何でも迷いながらもたくさんのことをやっていきたいと思います。
- ・先生方が現在感じている「不安」を正直に語っていらっしゃる姿を見られて、自分も悩みながら奮闘するんだらうなあと想像できて、少し安心しました。
- ・ワークライフバランス、というシリアスなテーマになりがち…という予想を毎回とても良い意味で裏切ってくださる楽しい会でした！！
- ・いろんな先生方や学年の方の貴重なお話や意見が聞けて私の「キャリア」が広がりました。
- ・もっと時間がゆっくり取ってあっても良かった。
- ・GWはもう少し時間があったら良かった。講演会はとてもためになった。
- ・キャリアの概念のとらえ直しができた。ワークとライフを別々に考えない方がいいなとも感じた。
- ・具体的な女性の卒後の働き方を知ることができてとても良かったです。
- ・現役の先生方のお話が伺えて、おもしろかったです。
- ・先生方のお話をお聞きできて本当に良かったです。年に1度だけでも機会をいただけてありがたいですが、年2回などより機会を設けていただけたら更に嬉しいです。
- ・女性の視点を知ることができた。
- ・実習中では聞けない私生活や学生時の話を聞けて、先生方も学生の時は私達と変わらない学生だったのだと安心しました。
- ・キャリアを考えるのが難しかった。
- ・卒業生の話が具体的でとても面白かった。もっと長く時間をとって話を聞きたかった。
- ・いろいろな方のお話を聞くことができて勉強になりました。
- ・非常におもしろかったです。各性ならではの大変さはあると思いますが、それも踏まえつつ互いに助け合えたらいいなと思いました。自分もその輪の中に入りたいなと思います。
- ・一人の持ち時間はやはり厳守された方がいいかもしれません。
- ・自分自身もみつめなおすきっかけになりました。
- ・もっと長い時間グループで話したかったです。
- ・色々なお話が聞けて勉強になりました。
- ・グループワークの議題がややせまかったのもう少しフリーにいただけたらより話しやすいかと思う。
- ・大変参考になった。
- ・大変盛り上がり、時間が足りないくらいの印象でした。
- ・大変有意義なお話が聞けて良かったです。

IV. その他

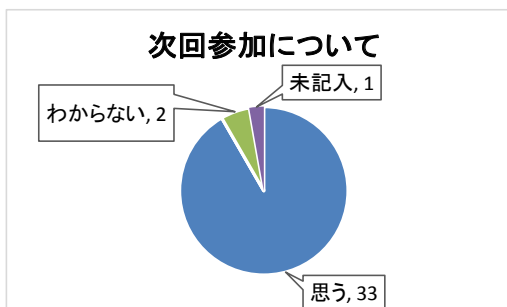
(1) 場所はいかがでしたか

学生寮	35
教育研究棟	0
その他	0
未記入	1
	36



(2) 次回も参加したいと思いますか

思う	33
思わない	0
わからない	2
未記入	1
計	36



(3) ぜひ話を聞いてみたい！という卒業生がいれば教えてください

- ・山中先生
- ・迫力のある先生のお話を伺いたいです。
- ・島根県人会の樋口先生はとても面白くて素敵な人なのでオススメです。
- ・男子学生参加者を増やしてほしい。イクボス講座を開いてほしい。
- ・今回、男性側の話にも興味深かったので育児休業を取得した卒業生など。
- ・白石先生(隠岐)
- ・小橋孝介先生(千葉県28期)
- ・中山明香里先生(鳥取県33期)、黒木美穂先生(島根県33期)
- ・キャリアを突き進む女性医師のお話も聞いてみたいです。
- ・眞貝美由規先生(群馬県22期)

(4) 今後取り上げてほしいテーマ・要望等ありましたら教えてください

- ・今回ご講演された医師の方々のパートナーの方に話してもらうのも客観的な目線が見れて面白いかな一つと思います。
- ・自治だけど、県で僻地ではあまり研修が行われなかった…というような先生。
- ・夜の部も希望者で開催、期待してます。
- ・男性で医師同士で結婚している方で男性側の視点でお話ししてほしい。女性だけの問題ではなく男性にも聞いてもらいたいと思った。
- ・「どうすれば理解あるパートナーが得られるか」が少し気になりました。
- ・もう少し時間を長くしてほしいです。
- ・義務明けのキャリアプランについて、義務明け10年以上経過した先生から(いつ、どのように決めたのか、自分の分岐点など)県毎の義務内訳の実情。
- ・非自治卒医師のキャリア(マッチング制度などから卒後まで)。
- ・各県で事情が違うと思うのですが、今のところ取り組みの報告がメインなので、何かしら改善した指標があればなお良いと思いました。
- ・飲み会ぜひ開催してください！！
- ・引き続き男性医師にスポットを当ててほしい。

Ⅲ. 卒後ワークライフバランスについて考える会 2017 年度ブロック担当会議

1. 開催概要

- 概 要 「卒後ワークライフバランスについて考える会 2017 年度ブロック担当会議」
- 目 的 大学及び各ブロックでの取り組みに関する情報を共有し、現在の問題点を把握し、卒業生女性医師支援を充実させていく過程での基礎を築く。
- 開催日 平成 2 9 年 8 月 2 5 日（金）
- 会 場 FUKURACIA 東京ステーション 6 階会議室 G
- 参加者 1 8 名（卒業生 7 名、関係者 1 1 名）
- 主 催 卒後指導委員会（地域医療推進課）
- 協力者 牧野 伸子（卒後指導委員会女性医師支援担当）
石川 鎮清（卒後指導委員会女性医師支援担当）
石川由紀子（卒後指導委員会女性医師支援担当）
中村 剛史（卒後指導委員会女性医師支援担当）
小島 華林（卒後指導委員会女性医師支援担当）
山本さやか（卒後指導委員会女性医師支援担当）

2. 次第

日 時：平成29年8月25日（金） 11：30～14：00

場 所：FUKURACIA 東京ステーション 6階会議室G

時刻	所要時間	内容	摘要
11：00	30分	受付	全体進行 地域医療推進課長
11：30	5分	開会挨拶	山田俊幸卒後指導委員長
11：35	55分 (15分) (30分) (10分)	ランチョンセッション ～1年間を振り返って～ 1 J-PASS 活動報告 2 ブロック担当者より 3 学内者より	小島華林 山本さやか
12：30	85分 (30分)	全体討論 1 結婚協定締結者を対象とした 意識調査アンケートに係る結果報告 「義務年限遂行にあたり夫婦がそれぞれの 出身地で経験する生活の満足度に関連 する要因」	議事進行 石川鎮清 報告者 牧野伸子
13：00	(50分)		
13：50	(5分)	2 卒業生の地域における支援体制の模索 ～広報戦略について～ (1) 広報用スライド (2) リーフレットの発行 3 まとめ	提言者 牧野伸子
13：55	5分	閉会挨拶	高本和彦卒後指導部長

3. 開催内容

開会挨拶

山田 俊幸 卒後指導委員長
(臨床検査部 教授)

暑い中遠方よりお集まりいただき感謝申し上げます。先日、大学の医学部広報委員の任のため大学説明会に訪れたが、意識の高い女子学生の出席が多いと感じたところである。また、本学で開催されたオープンキャンパスでも女子学生の参加が多かった印象を受けた。このことから今後の女子学生の入学者数は減ることはないのであろうと思われ、地域で卒業生を支えていくためにもこの会の活動が大事であると考えられる。

本日は様々な興味深いプログラムがあり、充実したディスカッションができることを期待している。

自治医大の1年間の活動報告

- ①卒後指導委員会・卒業生女性医師支援1年間の歩み ・ ・ 小島 華林女性医師支援担当
山本さやか女性医師支援担当
- ②医師・研究者キャリア支援センターより ・ ・ 石川由紀子女性医師支援担当

ブロック担当者の1年間の活動報告

①十枝めぐみ（香川県 13 期）

昨年の香川県人会開催前の時間を使って「ワークライフバランスについて考える会」を開催すべく参加者を募り、忙しい中、5名（うち女性3名）にお集まりいただき、ざっくばらんにお話を聞く機会を設けた。いまだに研修先の病院などから「女性ばかり」という言い方をされることがあると後輩の若い女医から聞いて残念に思うと同時に、もっと理解を進めていく必要があると感じた。

今年度は白石吉彦・裕子ご夫妻を招き、大々的にワークライフバランスについて考える会を開催したいと計画していたが日程が合わず、来年度以降に持ち越しの形になった。今年の県人会の際にも女性医師に限らず、男性医師も含めて会を県人会前の時間に開催したいと考えている。

私生活では変わらず診療所で訪問診療や小児の生活習慣病のケアをしている。長女が医学部に入学し、3月4月は遠方まで日帰り弾丸ツアーを4度ほどした。その医学部も地域医療に力を入れているが、1年生の間に教養と専門を学ぶためカリキュラムが厳しく、まだ香

川には帰ってきていない。活動が熱心な部活動だと両立するのが難しいようで、長女は第一希望の部活の入部を諦めたが、最近の学生はカリキュラムが厳しくてとても大変と漏れ聞いている。学生時代に色んな経験を積んだことが、後々に繋がってくるので学生にはもっと様々な経験ができるような機会を作る事、またそのような経験をするための手伝いを我々もしていかなければならないと思っている。

②白石 裕子（島根県 17 期）

＊活動報告スライド（白石）参照



③横谷 倫世（奈良県 21 期）

奈良医大の女性医師支援の仕事をしている医師と普段からお会いすることが多い。その医師が奈良医大の 2 年生のキャリア教育を担当されていて、ロールモデルを作るという講義のときに中村伸一先生（福井県 12 期）を講師として呼びし、名田庄診療所からお越しいただき講演いただいた。奈良医大でも地域枠があり、上手くいったケースもあれば上手くいかなかったケースもあるが、奈良医大の学生を前にして中村先生の講演は非常に盛況であった。その後、奈良医大で勤務している医師向けにもう 1 度同じ内容の講演を夕方からしていただいたが、自治医大卒医も大勢集まり、また奈良医大卒医も集まり、こちらも盛況で中村先生の人を惹きつけるパワーを感じたところであった。地域で目の前のことに向き合ってキャリアを作って仕事をされている卒業生の話を聞いていただけたので、非常に嬉しく思った。

現在の病院に勤務して 9 年目に入り、普段は大腸・肛門病センターで消化器外科を中心に仕事をしており、週 1 度、乳腺の勉強をしている。9 年目ともなると浅く広く、様々なことができるようになる一方、身体的に厳しいと感じる面も少しずつ出てきており、外科医としての生存期間を 1 年ずつでも延ばせるよう頑張っているところである。

私生活では子どもが中 2、小 4、年長と大きくなってきたので仕事がしやすくなった。また、病院ではハンディのある医師（下肢が不自由で車いす利用）が初期研修を続けているが、ハンディがある方でも十分に研修できるよう環境を整えてやっていけることはすごいと思

っており、研修もよくなってきたと実感している。

④定金 敦子（福岡県 22 期）

福岡出身だが、5 年ほど前から広島で勤務している。普段は疫学研究を行っており、地域医療にも臨床にも携わっていないため、日頃卒業生と接する機会はあまりないが広島県人会に加えていただき、年 2 度程県人会に出席して、広島県の地域医療の情報を聞いている。

昨年 11 月に開催された広島県女性医師の集まりにも参加し、広島県の卒業生に交じって色々なお話をお聞きした。出席者は下は研修医（38 期）から上は 14 期生までであった。義務年限中は地域医療に従事してそのあとはそれぞれの希望する進路に進んで自分の道を確立している方ばかりで、出席した研修医は非常に参考になったようであった。また、長年県人会に参加していなかった卒業生がこの集まりに出席し、半年後に開催された広島県人会にも出席されて、専門医としての経験や知識をその場で講演してくださったが、女性医師の集まりを開催できたことが良いきっかけとなったように思う。

私生活では小 2 と年長がいるが、来年就学するため、少し環境が変化すると思われる。完全に予測はできないが、仕事にももう少し力を注げるのではと期待している。

⑤影向 一美（新潟県 24 期）

＊活動報告スライド（影向）参照

⑥新井 由季（栃木県 25 期）

卒後 5 年目から現在の病院に勤務している。同年代の女性医師もいるのであまり感じていなかったが、気づけば当直をしている女性の中で最年長になっていた。

子どもは小 4、小 2、年中でそろそろ楽になっても良い頃と思われるが、年中の娘との格闘の日々にどう対応するかいまだに模索中である。

ブロック担当ということで、まずは今まで出席していなかった県人会に出ることから始めた。また、他県で子育て中の後輩から保育園の選択や通勤距離の問題などについて悩み相談を受けた。育児休暇による義根年限の延長が問題になっている様子であった。

今日、大学からの報告の際に訪問調査で訪れた先の女性医師が産前産後休暇のみで復帰しているという驚異的な状況を聞き、義務年限を延ばさないための作戦としてそのような方法もあるのかと驚いた。引き続き今日の会で様々な情報を得て学びたい。

⑦山本 智美（北海道 33 期）

現在は後期へき地勤務で道北にある病院で勤務している。後期派遣期間でありながら子連れで本日は参加させていただき感謝申し上げる。

人口 7 千人の町で働いているが、結婚協定で義務前半を香川県で 5 年間過ごしたため、今回初めて北海道の卒業生と一緒に働く機会となった。北海道は 3 年目になるが、2 年間は家庭の都合もあり地元の病院で後期研修をさせていただいた。今回、学生時代と一緒に過ごした先生方と初めて一緒に働いてとても楽しく勤務している。子どもは年長と年中になり、

少し余裕が出て、病院の配慮もあって今年はプライマリケア学会やその中の女子会にも参加させていただき、北海道の地方会にもやっと参加できるようになり、少しずつ生活がなんとかなってきたように感じており、同時に地域の仕事にやりがいを感じている。

北海道は初期研修制度が始まるまで旭川医大の医局に入るしかなかったため、道に残っている卒業生があまりおらず、実際に北海道で女性の先生方のお話を聞く機会がなかなかなく非常に残念に感じている。また、元々女性が少なく、義務年限中に結婚・出産をされる方が少なく、香川県と事情が全く異なっている。道からも現時点ではあまり積極的ではないような姿勢が見えて残念に思う。そのような中、今年、結婚協定で他県から道に来られた後輩女医がいて、出産を経た上での困りごとなどに関して相談を受けることがあった。女子学生も増えており、地域枠も考えていくと北海道だけ遅れを取るのには悲しいことで、自分自身が何かできるというのは難しいかもしれないが、この会で様々な意見を吸収して学んで、北海道に還元したいと考えている。

ただ、北海道で実際に集まろうと思っても札幌に集まるにしても、非常に時間がかかるため、どのように意見を聞くか、関わりを持つかが難しいと感じている。



ブロック担当会議 自治医大活動報告



女性医師支援～1年の動き（28.9～29.7）

- I. 卒後ワークライフバランスについて考える会2017 in Jichi (29.6.11)
- II. 訪問調査（・神奈川県（28.10）・埼玉県（28.10）・広島県（28.11）・秋田県（29.7））
- III. 学生懇談会（①岡山・愛知（28.10）②京都・栃木（28.11））
- IV. 学生世話役人会 **NEW!**

I. 卒後ワークライフバランスについて考える会2017 in Jichi (29.6.11)

テーマ「地域でのワークライフバランスとキャリアを支える」

講演会：67名（卒業生18名、在学生35名、その他4名、関係者10名）

講演Ⅰ 吉村 裕子【産婦】医師（東京都25期）
「すべての出会いに感謝して～自治医大出身の母として、今思うこと～」

講演Ⅱ 紙本 美菜子【山口】医師（鳥取県31期）
「おばちゃん家庭医への道！」

講演Ⅲ 加藤 一朗 医師（鳥根県21期）
「これだから離島医療はやめられない！」

懇談会：56名（卒業生15名、在学生31名、関係者10名）
学生グループワーク：ワークライフバランスの中にキャリアを見つめよう

卒後ワークライフバランスについて考える会
2017 in Jichi 講演会

自治医大卒業生としての悩み

仕事・生活・子育て・家族・地域・社会・自分自身

公的子育て支援サービスのいろいろ

- ・保育園・認定こども園など保育所
- ・幼稚園内保育所
- ・放課後児童育成クラブ
- ・ファミリーサポートセンター
- ・児童館・児童発達支援センター
- ・乳児トワイライトステイ
- ・育児短期研修所/育児時間

講演Ⅰ 吉村裕子医師（東京25期）
「すべての出会いに感謝して～自治医大出身の母として思うこと～」

講演Ⅲ 加藤一朗医師（鳥根21期）
「これだから離島医療はやめられない！」

15時：医学部学生

ワークライフバランス講演会で先人に学ぶ

三輪の神話：松坂権衛付き全自動洗濯機、食器洗い乾燥機、ロボット掃除機
相手よりも相手の親が大事！

おばちゃん家庭医への道

- ▶ 「自分の道をいく」「自分の感性を大切に」
- ▶ すぐくなくていい
- ▶ 恥ずかしいことなんてない
- ▶ 自分を責めないでわからないくらいがいい
- ▶ 困ったら他人に頼る、他者に聞く
- ▶ 心身ともに無理をしない
- ▶ すべては家族と患者のため
- ▶ 涙がある人＝自己認識のススメ
- ▶ 仕事も家庭もゆるく続けていきたい

講演Ⅱ 紙本美菜子医師（鳥取31期）
「おばちゃん家庭医への道！」

講演Ⅲ 加藤一朗医師（鳥根21期）
「これだから離島医療はやめられない！」

質疑応答

講演会 全体の様子

卒後ワークライフバランスについて考える会
2017 in Jichi 懇談会

II. 訪問調査

□ 訪問の趣旨

地域での勤務において

勤務との両立に悩むケースが増加している

地域において勤務と育児とを両立している女性卒業生を訪問し、**両立についての現状把握と両立のための要素**を浮き彫りにする

↓

学生や女性卒業生へフィードバック

II. 平成28年度訪問調査～女性卒業生の集まり

◆広島県女性卒業生 (28.11.5)

《調査に協力いただいた卒業生》

山本 尚子 (原田)	広島県・14期
宮崎 明子	広島県・20期
岡本 和子 (松島)	広島県・21期
定金 敦子 (轟木)	福岡県・22期
井原 弥子 (楠)	広島県・28期
今村かずみ	広島県・38期

〔6名〕

近況報告

経験を基にアドバイス

ヒントを得る&刺激

II. 平成27年度訪問調査

◆相模原市千木良診療所 (28.10.11)

《調査に協力いただいた卒業生》

匹田さやか (青柳) 先生 (神奈川県30期)

- 卒後3年目から大分県と結婚協定締結

⇒卒後7年目、千木良診療所勤務時に第一子出産。育休取得せず。診療所の為当直なし。往診24時間対応。

【結婚、出産、育児と義務の両立について】

- ・上司、スタッフ、地域の理解が大切。
- ・そのためには周囲の人から信頼される人間関係が大切。

II. 平成28年度訪問調査

◆秩父市立病院 (28.10.18)

《調査に協力いただいた卒業生》

①井上依里 (福川) 先生 (香川県36期)

- ・卒後1年目から埼玉県と結婚協定締結

⇒聞き取り時点で卒後4年目。卒後3年目に第一子出産、産休のみで復帰。

【後輩へ伝えたいこと】

- ・子育て中の先輩女医を間近で見ることが、励み・勉強になる。
- ・学生時代に先輩医師の講演を聞いた。低学年のうちは「義務があってもなんとかやれる」くらいの情報で満足。成功体験の話を低学年のうちから聞くことに意味がある。

II. 平成28年度訪問調査

◆秩父市立病院 (28.10.18)

《調査に協力いただいた卒業生》

②高山千幸 (松岡) 先生 (埼玉県31期)

- ・卒後3年目から愛媛県と結婚協定締結

⇒聞き取り時点で卒後9年目。

卒後4、6、8年目に産し、いずれも産休のみで復帰。

【病院について】

- ・県内の配置先で唯一の院内保育のある施設の為、子育て中の女医が集まる。
- ・日中は主治医制、当直帯は当直の医師が担当の為、夜中の呼び出しなし。
- ・勅使河原院長 (4期) の理解のもと、子育て中の女医に限らず、どの医師も区切られた時間で勤務できている。

II. 平成28年度訪問調査

◆秋田厚生医療センター (29.7.20)

《調査に協力いただいた卒業生》

②奈良藍子 (花房) 先生 (岡山県29期)

- ・卒後3年目から秋田県と結婚協定締結

⇒聞き取り時点で卒後12年目。

卒後6、9年目に産し、いずれも育休6ヶ月取得。今年11月に第三子出産予定。

【協定締結まで】

- ・入籍は医籍登録のタイミングで行った。
- ・初期研修は互いの県で行ったが、その理由は互いの県で周囲との関係性を構築するため。これでどちらの県に赴任した時でも相談できる環境を整えることができた。

III. 学生懇談会

①岡山県・愛知県 (28.10.20)

卒業生：神谷尚子 先生 [岡山県30期]

出席者 女子学生8人 (岡山県出身3人愛知県出身5人)

*結婚協定を締結しているため2県の女子学生に声をかけた

【演者より】

- ・特に育児中は職場の上司と相談しながら乗り越えていってほしい。
- ・夫婦の家事は役割分担！

III. 学生懇談会

②京都府・栃木県 (28.11.30)

卒業生：松原優里 先生 [京都府28期]

出席者 女子学生9人 (京都府出身3人栃木県出身6人)

*結婚協定を締結しているため2県の女子学生に声をかけた

【演者より】

- ・義務中は周りに流されることなく、自分のペースで自信の持てるものを、と頑張って過ごした。
- ・環境の変化を新しい出会いのチャンスとプラスに捉えた。結婚協定は2県がふるさとなるチャンス！

IV. 学生世話役人会 NEW!!

・女性医師支援に関して（特に学内でのワークライフバランス会）、学生を中心に広報など協力してもらえる在学生と交流する機会を設けた。

・学生協力者は代々の先輩からの推薦の形を取っており、在学中のみならず卒業後も講演者等、声掛けできるような関係性づくりを目指している。



17

J-PASS

Jichi
Post graduation
Self-Affirmation
Support
System



それぞれのワークライフバランスを保ちながら、今の自分自身を**肯定**して
楽しんで人生を進んでいてもらいたい

ご清聴
ありがとうございました。

18

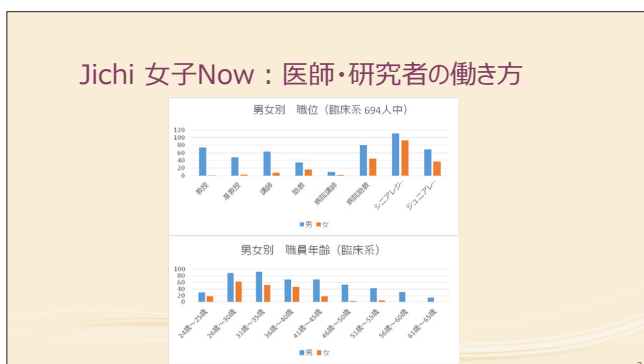
 慶応義塾大学
 医師・研究者キャリア支援センター
 Center for Physician and Researcher Career Support

1年の活動報告：医師・研究者キャリア支援センター

プライマリ・ケア学会@高松
 ワークショップ&究極の女子会

総合診療内科／医師・研究者キャリア支援センター／
 卒後指導委員会 女性医師支援担当

石川由紀子



Jichi Joy Café

顔見知りになりましょう、思いを話しましょう、働き易い職場を目指して働きかけましょう。

平成28年「明日の自治で働く女性医師・研究者への処方箋」

JJC1 ストーリー・思い フリートーク

JJC2 働きやすくなるためのアイデア グループワーク

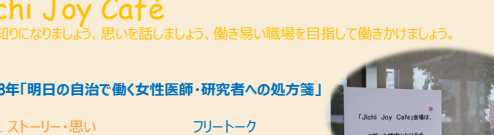
JJC3 キャリアアップのためには 講師：女性管理職（臨床医・解剖学）

平成29年「男女ともに輝いて働くために」

JJC4 困難を乗り越えて 講師：女性医師・女性研究者

JJC5 タイバシティ 講師：介護の両立・男性研究者

JJC6 それぞれの現場で 講師：男性管理職・女性研修医（案）



Jichi Joy Café での収穫： 生の声

困難を乗り越える為の職場に期待する支援

研究者：

実験補助雇用 / 在宅勤務 / 育児短時間制度の実現

医師・研究者共通：フレックス又は遅出早出勤勤務制度

職場の方々の理解とサポート（子どもの病気の際等）

柔軟に働き方を変えることのできる仕組みの構築

職場を離れたときのつながり（研究・論文作成など）

センターの役割としては大学への提言と制度の実現化

←まずは職員対象の調査を計画

ワークライフバランス講演会→働き方を考えるセミナー

信託経済大学 ワークライフバランス講演会

メインテーマ 「働き方と人生設計のための実践的知識」

日時 平成25年9月24日(土) 14:00~16:30

講師 山本浩吉先生(大塚市立総合福祉センター所長)



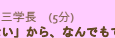
山本先生は、大塚市立総合福祉センター所長として、市民の生活に直接関わっています。今回の講演では、働く人々の悩みや課題について、具体的なアドバイスが期待されています。

徳倉先生:
育児兄弟の男女のWB(L)問題を今組織が解決し、人材流出を防ぐ事は10年後に成る大介護時代の解決につながる。

山元先生:女性でありながら、海外で信念を貫かれる先生の使命感に学生から管理職まで誰もが感動しました。

パネルディスカッション:
演者 小形方一・院長
小形先生(21期): M4 手塚君
院長より名言
・人生メリハリが大事!

パネルディスカッションの様子



平成25年度は・・・働き方を考えるセミナー
 平成29年10月19日(木)18:00～20:00
 ～自分らしく輝くために～

来賓挨拶：赤井良三 理事長 (5分)
講演:「時間が無い」から、なにもできません！
 演者: 吉田 穂波様
 神奈川県立保健福祉大学 准教授 / 産婦人科



Japan Primary Care Association

究極の女子会

～みんながってみんないい～



医師と医療者を目指して勉強中の方へ！ お母さんへの感謝です。

平成29年5月13日（土）
12:15～13:15
第4会場 サンポートホール東大阪6F
615演義室

今回のテーマ♪
女性医師の暮らし、育ち方

ワークショップのご案内
同日、13:15～13:30 13:30～14:00
(参加無料) 第4会場 4階 88Cクアパ
◎ なんとお母さんへの感謝の会♪
◎ キャラクター装飾のゲームを知らう！言うう！

母や先生諸君は、医業と、女としての両方をこなすということ、
男や女に問わず大変なものです。

そんな女医たちは人間として、自らも成長し続けることに
たどり、職業としての女医としての成長を歩みます。

フロンティアにおける女性医師が果たしており、女性の力
も改めてです。是非参加してください。

一緒にフロンティアに貢献できる方々を覚えておきましょう！



ワークショップ：今、私たちの求める
サポートとは？ 女性アリア支援プロ
ラムを知ろう！ 語ろう！

日 時：平成29年5月13日（土）
場 所：高松シビックホール
司 会：庵教島前病院 白石裕子

①鳥根大学地域医療支援学講座 准教授 佐野千晶先生
「鳥根大学医部における女子学生、女性若手医師の意識を通して」

②自治医科大学地域医療学センター 准教授 牧野伸子先生
「地域で頑張る医師の支援 ～時間的・空間的の多様性を捉えて～」

③岡山大学大学院 地域医療人育成大学院 教授 片岡仁美先生
「岡山大学女性医師アリア支援10年の軌跡-大学で、地域で」

④山形県 公徳会トールヘルグクリニック院長 川合淳子先生
「山形女性医師ネットワークYJINIO活動」

アンケートより
いろいろな組織の具体的な支援内容を知ること
が出来、自分の病院やネットワークでも取り組
んでいこうと思えました。

活動報告スライド（白石）

20170827

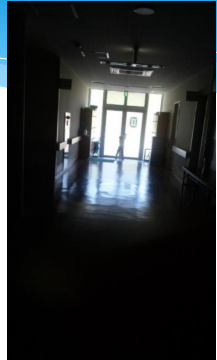
1年間の報告

隠岐島前病院・浦郷診療所 白石裕子

1

概要

- 1 • 女性医師支援
- 2 • 医師として
- 3 • 家庭人として



2

1 女性医師支援

3

岡山大学 マスカットフォーラム

- * 20161103
- * マスカットフォーラム
- * 女性医師支援活動10周年記念イベント
- * 講演 「JOYの心得」

4

プライマリケア学会・学術大会での活動

- * 20170513 香川
- * 12:00-
ワールドカフェ究極の女子会vol.3 女性医師の育て方
- * 15:45-
ワークショップ 今私たちの求める支援とは？
牧野伸子先生、佐野千晶先生(島根大学)、
片岡仁美先生(岡山大学)、川合厚子先生(山形Y-JIN)

5

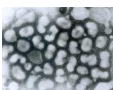
2 医師として

6

心と体の病気について等の講演
小学生（夢・授業、地域医療）
警察の健康相談医師として
論文作成…遅々として進まず
Webマガジン メディカルトリビューン
リレーエッセイ執筆
平成29年度へき地医療功労者表彰 受賞(自治体病院協議会)



手あらい
うがい
が
重要



- ・ インフルエンザの感染力は非常に強く、
- ・ 日本では毎年約1千万人、
- ・ 約10人に1人が感染しています。

7

取材等

島根県保険医協会・会報 日本医師会・ドクターゼ コウ/ドリ、ドラマ制作プロデューサー

白石裕子 先生にインタビュー



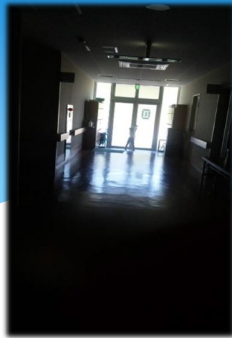
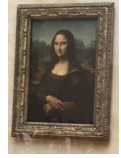
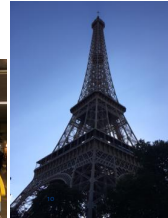
8

3 家庭人として

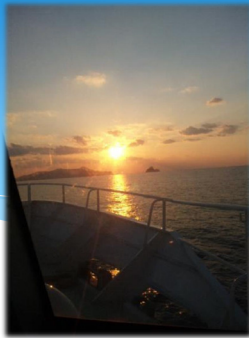
9

長男、次男、長女が進学。

- 夏休み
- 2年ぶりに取得して
- フランス行ってきましたよ



11



ご清聴ありがとうございました
こころも からだも メンテしよう



12

活動報告スライド（影向）

卒後ワークライフバランスに
ついて考える会2017
ブロック担当会議
活動報告

新潟県立新発田病院 内科
影向 一美
自治医大24期(新潟)

1



許可病床数478床
(一般403床、精神45床・感染4床、ICU20床、NICU6床)
診療科目
内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、産婦人科、
眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科、神経内科、放射線科、脳神経外科、
麻酔科、呼吸器外科、心臓血管外科、リハビリテーション科、救急科、歯科口腔外科、
病理診断科
医師数 106人(内 女性医師 18人、自治医大卒業生 6人)

2



上部・下部消化管内視鏡検査
内視鏡的逆行性胆管造影
超音波内視鏡
超音波内視鏡下針生検
内視鏡的胃粘膜下層剥離術
消化管ステント挿入術
経皮経肝の胆管穿刺
etc

3

にいがた勤務医ニュース
平成28年12月20日
『女性医師の本音』



4

全体討論

1 結婚協定締結者を対象とした意識調査アンケートに関わる結果報告

「義務年限遂行にあたり夫婦がそれぞれの出身地で経験する生活の満足度に関連する要因」

2016 年 12 月に行った結婚協定締結者を対象とした意識調査アンケートをもとにして分析した結果を、「義務年限遂行にあたり夫婦がそれぞれの出身地で経験する生活の満足度に関する要因」というタイトルで、2017 年 8 月 19 日に第 49 回日本医学教育学会（札幌）にて発表した（筆頭演者：中村剛史）。

<結果の概要>

- ・自治医大卒業医師どうしの夫婦で結婚協定に基づきお互いの出身地で義務年限を遂行する 105 組（210 人）を対象とした。
- ・それぞれの出身地での生活の満足度と、生活で困ったことおよび困ったときの相談相手を調査した。
- ・生活の満足度（0-100）の中央値は、自分の出身地で 70、パートナーの出身地で 74 であった。
- ・困ったことのうち最も多かったのは、両親の支援が得られにくいことであった。
- ・相談相手のうち最も多かったのは、配偶者であった。
- ・人間関係で困ったことがあると、お互いの出身地に関わらず、生活の満足度は低かった。
- ・パートナーの出身地では、人間関係だけでなく、生活の不便さ、周囲の理解、県人会との関係など、より多くの困ったことの経験で生活の満足度が低かった。
- ・自分の出身地では上司が相談相手であると、生活の満足度が高かった。

【まとめ】

結婚協定を経て地域医療に従事する夫婦にとって、自分の出身地ではさほど影響しないような困りごとであっても、パートナーの出身地では生活の満足度に影響しやすい。とくに上司がよい相談相手であることは生活の満足度を高めることが示唆され、上司の役割を含めた受け入れ側のきめ細やかな配慮が求められる。

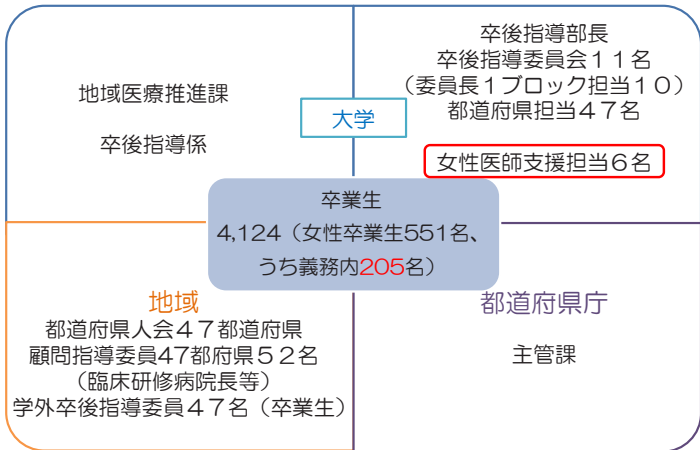
2 卒業生の地域における支援体制の模索～広報戦略について～

(1) 広報用スライド

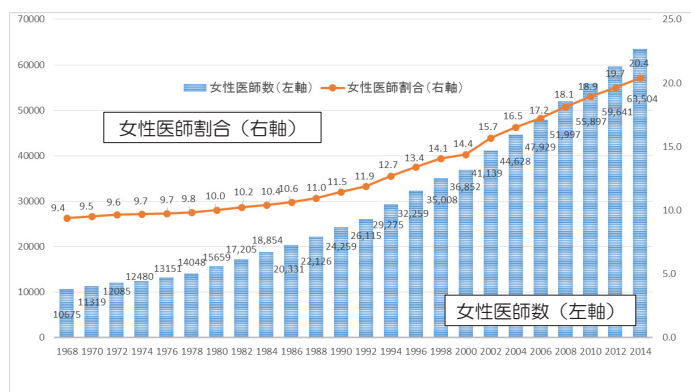
牧野 伸子（大阪 10 期 自治医科大学公衆衛生学部門）

大学の支援体制について、下記のとおり卒業生に向けて発信していきたい。

特にブロック担当には講演や個人的なレクチャーでも結構であるので、資料を自由に活用いただきたい。

スライド	牧野コメント
女性医師と就業継続 ～自治医科大学の取り組み～  女性医師ブロック担当会議 2017年度版	
	卒後の支援体制について。 大学では卒後指導部、卒後指導委員会のもと、女性医師支援担当教員が配置されている。 地域では顧問指導委員、学外卒後指導委員がいる。 各都道府県主管課と連携しており、大学の事務窓口は地域医療推進課である。

全医師に占める女性医師割合

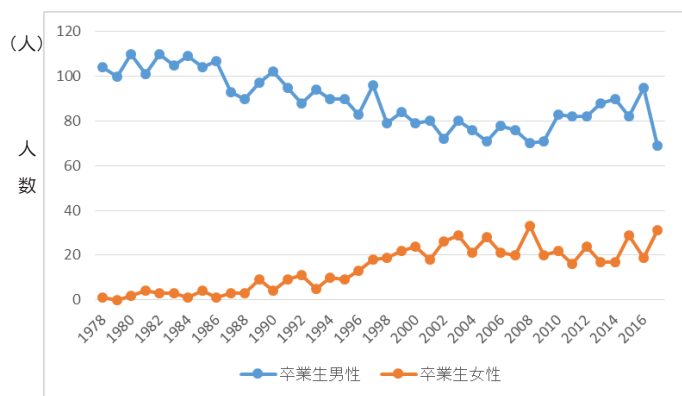


【厚生労働省統計資料】医師・歯科医師・薬剤師調査



女性医師数は年々増加している。

自治医科大学医学部女子卒業生年次推移

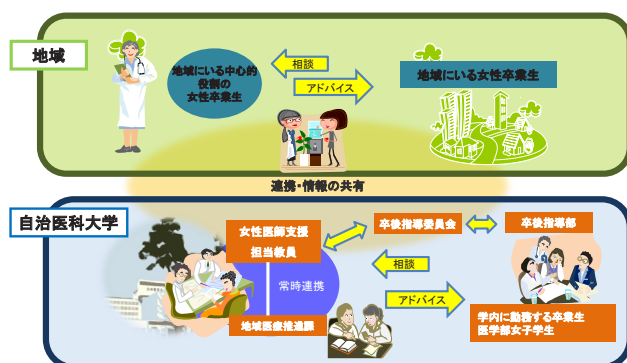


卒業期



毎年卒業してくる自治医大医学部生の中での女子学生と男子学生の人数の推移を示す。女性卒業生数が年々増加しているのがわかる。

卒業女性医師の地域におけるサポートフロー図(J-PASS)



サポート体制としては、自治医大と地域の2階建てになっている。自治医大では卒業指導委員会や卒業指導部で、卒業生はもとより、医学生等の卒後に関してサポートを行う。地域では地域で活躍する中心的な役割を担う女性卒業生がブロック担当となり、ワークライフバランスのとり方等のアドバイス、意識改革を行う。個別の対応困難例に対しては、地域には顧問指導委員や学外卒業指導担当の先生方がいらっしやって、対応していただいているので、女性医師支援に関するブロック担当者は、アドバイザー的な役割を果たす。

JMUから地域へ-女性医師支援の輪-

～キャリアを伸ばす～
～地域がはぐくむ子供たち～

ワークライフバランス

- 卒業生の講演会
- ブロック担当者会議
- 個別聞き取り調査

キャリアサポート

- 都道府県別訪問調査
- 学生懇談会

◆女性医師支援プログラム
◆ニュースレター
◆リレーエッセイ

地域医療推進課
(業務委託)
NPO ちちまよ-20-クラブ

自治医大 卒業生女性医師支援

検索

JPASS

卒後ワークライフバランスについて考える会	
～在学生と女性卒業生の交流会及び 地域で中心的な役割を果たす女性卒業生との意見交換会(ブロック会議)～	
	テーマ
平成26年 5月25日	キャリアについて(講演会&交流会)
平成26年 8月29日	働きやすい職場について(ブロック会議)
平成26年11月20日	育児と仕事の両立について(講演会&交流会)
平成27年 7月 3日	キャリア形成、仕事と子育ての両立(講演会&交流会)
平成27年 8月28日	地域における女性医師支援ネットワークづくりに役立つ参考事例(ブロック会議)
平成28年 6月19日	キャリア in the Future(講演会&交流会)
平成28年 8月26日	ブロック担当の1年間の活動報告/結婚協定者を対象とした意識調査実施のための提案(ブロック会議)
平成29年 6月11日	地域でのワークライフバランスとキャリアを支える(講演会&交流会)

※過去の開催状況H24.11.20、H25.5.26、H25.8.9(ブロック会議)、H25.11.22

参加学生の声!!
(H29.6.11)

卒業後のことについて具体的なイメージがなかった!

男女それぞれの大変さはあるけど、お互いに助けあえたらいいな!!

先生たちも皆さんが活躍されているんだ自分も頑張りたいながら頑張りたい!

卒業生の話は具体的に、とても楽しく話を聞くことができた。また参加したい!!

女性医師支援に関連して これまで訪れた病院等施設 (H29.8現在)

●...自治医大関連施設

●...個別調査により訪れた病院等施設

★...都道府県単位での女性卒業生の集まり

色の入った都道府県はこれまでに
情報交換(ブロック担当会議、講演演者、
子育て支援地域情報収集)ができた場所

訪問した自治医科大学

附属さいたま医療センター

埼玉県(1ヶ所)

千葉県(2ヶ所)

東京都(2ヶ所)

神奈川県(1ヶ所)

静岡県(1ヶ所)

山梨県(1ヶ所)

愛知県(1ヶ所)

香川県(1ヶ所)

香川県(1ヶ所)
JMU女医会

山口県(1ヶ所)
JMU女医会

広島県(1ヶ所)
JMU女医会

島根県(1ヶ所)
JMU女医会

鳥取県(1ヶ所)

新潟県(1ヶ所)

山形県(1ヶ所)

秋田県(1ヶ所)

青森県(1ヶ所)

岩手県(2ヶ所)

福島県(1ヶ所)

茨城県(2ヶ所)

宮城県(1ヶ所)

卒業生子育て支援業務

年度	業務委託先
H21年10月～H22年度	NPO法人 仕事と子育て両立支援センター
H23年度～H24年度	(株) 日本ディケアセンター
H25年度～	NPO法人 とちぎユースワークカレッジ

現在の業務委託内容

ニュースレターによる子育て情報配信
子育て困窮ケースへの対応
産前産後休暇に入る医学部卒業生への情報提供

28年度実績

ニュースレター、年6回発行
女性医師リレーエッセイ (H26. 11～)
→卒業生から希望があり女性卒業生にリレーエッセイを執筆していただいている。
レターは地域医療推進課で配信しているメールマガジンの「女性医師支援NEWSレター」において掲載



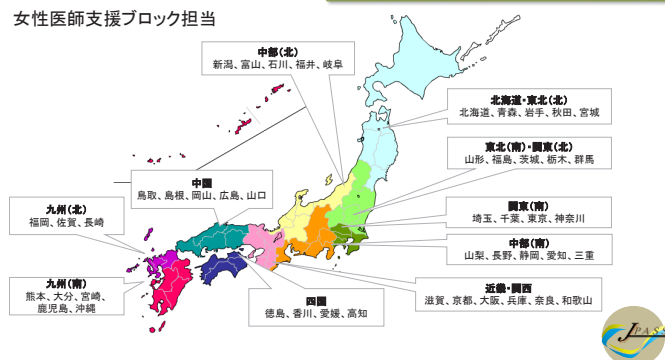
卒業生への子育て支援業務を示している。

ブロック担当者会議

ブロック担当者会議 (年1回、東京)

- ・地域で中心的役割を担う女性卒業生の情報の共有
- ・今後の自治医大女性医師支援対策の企画・立案

女性医師支援ブロック担当



ブロック担当者のエリアを色分けにして示している。

年に一回、一堂に会して現状の把握と今後の活動の方向性を共有している。



育児のあるなしにかかわらず、男女ともに、
それぞれのワークライフバランスを保ちながら、
将来の自分自身のキャリアを見据えて、
今の自分自身を肯定して、楽しみながら人生を進んで行ってほしい



立派なキャリアを積んでいても、自分はまだまだだと伝える自治医大卒業生が多い印象を受けている。
仕事を離れた部分もキャリアの一つであり、前向きに捉えて進んでほしいという思いから、ロゴには“自己肯定感(self-affirmation)”というワードを入れている。

【質疑応答】

・ブロック担当者が会議で説明を行う際に、パンフレットのような配布資料は準備するか。
⇒各人で資料を印刷し配付することは問題ない。必要に応じて、J-PASS 活動に関する報告書を大学で準備して配付いただくことも可能である。

・広報活動は自治医大関係者限定に行うものか。社会に向けた試みとしての考え方はあるか。
⇒自治医大関係者に限る必要はない。使用範囲は講演会等で資料を印刷する程度であれば問題ない。活用の際は実績報告をしていただきたい。報告は事後でも構わない。

※大学の支援体制に関するスライドはどなたでもお使いいただけますので、ご使用を希望される方は地域医療推進課までお問い合わせください。

地域医療推進課 卒後指導係

✉ : chisui@jichi.ac.jp

(2) リーフレットの発行

牧野 伸子

これまでの J-PASS 活動に関して、地域に卒業生から得られた貴重な意見をまとめながらも、紹介できていないものがあるので、卒業生から得られた意見と共にワークライフバランスに関する制度・情報等をまとめ、事例集として作成することを検討している。

発行にあたっては発行元として“ブロック担当者”を明記したい。

事例集内容（案）

○地域で活躍する卒業生からのコメント

～「卒後ワークライフバランスについて考える会」講演会からの抜粋

○結婚協定者を対象としたアンケートより自由記載コメントの抜粋

○ブロック担当者、女性医師支援担当教員の紹介

○出産・育児・介護等に係る制度と義務年限の取扱いに関すること

○結婚協定者を対象としたアンケート結果報告

○結婚協定勤務パターン

【質疑応答】

・これまでの提案では事例集は冊子を印刷し、配付することを検討していると見受けられるが、webでの公開は行わないのか。ペーパーレス化の時代であり、最近の学生の参考書でも電子媒体化が進んでいる。

⇒事例集の内容については個人情報を含むものもあるため、内容を精査し、特に卒業生からの意見や制度的なことなど、誰もが知っていて損はない情報を抜粋しダイジェスト版としてwebに公開する方法もある。

・義務年限内の中間層の卒業生は多忙な時期であり、子育てのことなど自分自身以外の悩みが広がり多忙な時期なので、冊子で参考になる資料が手元に届けば、時間がない中でページをめくることができるし心強いかもしれない。また、その層の卒業生から学生に対して発信してもらうためにも優先的に支援をしていく必要があるのではないかな。

⇒事例集は地域の卒業生にも活用いただきたいが、まずは学生に対し卒前に情報を提供し、様々な知識を頭に入れてもらい、卒後に関しての対応力を養ってほしいとの観点から、学生をメインターゲットに事例集を作成することを想定していた。

⇒義務年限中の卒業生は、勤務先や実際の立場、働く環境、県との関係など、非常に限られているので個別の相談がメインとなるのではないかとと思われる。ゆえに、冊子があっても、そこから解決に直結することは現実的に難しい。そうすると学生のうちに、いまどんなことができるのか、どの様に働いている方がいるのかを広く知ること、卒後に対して計画的に色々考えることができるのではないかなと思う。

・ブロック担当の紹介で名前を掲載するが、メールアドレスなどを記載し、地域での相談相手としての紹介となるのか。

⇒ブロック担当の個人メールアドレスは掲載せず、卒業生からの連絡窓口は地域医療推進課とし、そこから仲介作業を行いたい。窓口は地域医療推進課であるが、発行元として卒後指導委員会やブロック担当、女性医師支援担当教員名が示される。各県には顧問指導委員、学外卒後指導委員がいるので、問題が生じた場合、大学と地域のネットワークの中で、それぞれの役割の方と協力していくことになる。

まとめ

石川 鎮清 女性医師支援顧問

結婚協定者を対象としたアンケート結果に関して、さらに調査結果を分析したいという方がいらっしゃればご連絡いただきたい。

広報戦略について、資料や事例集を様々な場面でお役立ていただきたい。学生や卒業生に向けての発信に力点が移ってきているので、今後も一歩ずつ進んでいければと感じている。

閉会挨拶

高本 和彦 卒後指導部長

今日は、皆さんの熱心な協議により有意義な時間を共有できた。各地域での活動も引き続きお願いするとともに大学としても、情報の収集、発信など努力していくのでご理解とご協力をお願いしたい。

今回話題に上がったワークライフバランスに関する制度については、ワークの部分、すなわち医師の働き方そのものに関して、大きな転換期を迎えていることを最後に紹介し、閉会の言葉とした。

今秋の臨時国会において、労働基準法など労働条件の最低基準を決める法律の改正案が提出される予定である。医師については、時間外労働の上限規制の対象ではあるが、業務の特殊性から適用が猶予されている。この 1 年半の間にあり方を検討をしなければいけないことから、8 月の上旬に国に検討会が設けられたところであるが、医師には応召義務や自己研鑽と労働の線引きなどの特有の課題がある。タスクシフティング、ワークシェアなどの推進も提言されており、多忙を極める勤務医の置かれた状況を改善するための業務内容について整理が行われていくものと思われる。

地域の医療関係団体からの意見にも関心を持っていただきたい。

我々も情報収集し、ワークライフバランスの推進に繋がる事柄は、適宜こうした会議にも取り上げていきたいと考えている。この半年から 1 年は大変重要な時期だと思うのでよろしくお願いしたい。



4. 参加者名簿

【女性卒業生】

No.	氏名（旧姓）	ブロック	出身	卒業
1	山本 智美（北村）	北海道・東北（北）	北海道	33
2	新井 由季（松倉）	東北（南）・関東（北）	栃木	25
3	影向 一美（大嶋）	中部（北）	新潟	24
4	横谷 倫世（八幡）	近畿・関西	奈良	21
5	白石 裕子（吾郷）	中国	島根	17
6	十枝めぐみ（松本）	四国	香川	13
7	定金 敦子（轟木）	九州（北）	福岡	22

【大学関係者】

No.	氏名	所属	出身	卒業
1	山田 俊幸	卒後指導委員長		
2	高本 和彦	卒後指導部長		
3	牧野 伸子	卒後指導副部長	大阪	10
4	石川 鎮清	女性医師支援顧問	福岡	12
5	石川由紀子	女性医師支援担当	静岡	17
6	小島 華林	女性医師支援担当	青森	24
7	山本さやか	女性医師支援担当	宮城	25
8	熊倉 盛男	地域医療推進課		
9	戸口 健	地域医療推進課		
10	黒川 澄子	地域医療推進課		
11	雲井 悠里	地域医療推進課		



IV. 学生懇談会

1. 開催概要

- 概 要 「学生懇談会～卒業生と共に地域におけるキャリアデザインを描こう！」
徳島県34期 三橋乃梨子医師
- 目 的 出身県の卒業生と在学中から交流を深めると共に、ワークライフバランス及び
キャリアについて話を伺い、卒後の地域勤務への理解を深める。
- 開催日 平成29年10月26日（木）17時00分～18時00分
- 会 場 医学部教育研究棟1階 会議室1
- 参加者 18名（卒業生1名、在学生12名、関係者5名）
- 主 催 卒後指導委員会（地域医療推進課）
- 協力者 牧野 伸子（卒後指導委員会女性医師支援担当）
石川 鎮清（卒後指導委員会女性医師支援担当）
石川由紀子（卒後指導委員会女性医師支援担当）
中村 剛史（卒後指導委員会女性医師支援担当）
小島 華林（卒後指導委員会女性医師支援担当）
山本さやか（卒後指導委員会女性医師支援担当）
高丸利加子（医学部6年生）

2. 開催内容

徳島県34期 三橋乃梨子医師

日時：平成29年10月26日（木）17時00分～18時00分

場所：医学部教育研究棟1階 会議室1

- (1) 開会挨拶
- (2) 出席者自己紹介（名前・学年・部活等）
- (3) 義務年限中のお話
- (4) フリートーク
- (5) 写真撮影



◆三橋先生から

- ・地域勤務では県立中央病院に紹介する機会が多いと考え、県立中央病院での初期研修中は色々な科の医師と話のできる間柄になろうと積極的にコミュニケーションを取るようにした。研修中は幅広い人間関係を築いてほしい。
- ・義務年限中盤で1人へき地診療所に配置となるが、診療所の前に配置となった病院では幅広い経験を積むため自分の診療科（内科）以外の他科の上級医にも指導を仰いだ。
- ・医師として様々なバックグラウンドを持った患者と接するので、学生のうちから医学と関係ない分野も興味を持って経験してほしい。
- ・働きながら学んで得ることが多いので、学生のときから頑張り過ぎないように！

◇学生からの感想

- ・実際の現場で働いている先生のお話を直に聞いて、徳島の医療のリアルを知れたので。
- ・あまり詳しく聞いたことのなかった義務年限中のことを詳しく聞けたから。
- ・まだ先の事ですが、実際に現場に出て仕事をされている先生のお話を詳しく聞く機会はないのでためになりました。
- ・自分の卒後について、詳しい経験談を聞くことでイメージを固めることができた。
- ・徳島の普段あまり聞けないことを聞くことができたので良かったです。また、他の先生がどのようにしていたかなど会わない先生の話も聞けました。
- ・実際に臨床の場にいる先輩から地域のことを聞くことができ、どのように働くのか何が必要なのかイメージがついた。
- ・深い話を聞くことができた。
- ・科の選択などキャリアデザインの参考になりました。
- ・緊張して質問ができなかった。
- ・県の詳しい話を聞くのは貴重な機会なのでとてもありがたい。
- ・卒業生とこのようにじっくり話せる機会が少ないので貴重でした。
- ・年の近い先生の医者生活が具体的にうかがえてとても楽しかったです。

地域医療推進課では、卒業後の勤務に係る様々なこと（育児支援も含む）の連絡調整業務を行っています。各都道府県での勤務状況などを把握しているからこそアドバイスできることもあるかと思います。みなさんが少しでも笑顔が多い日々を送られますよう、微力ながら協力させていただきますので、遠慮なくご連絡ください。

地域医療推進課卒後指導係

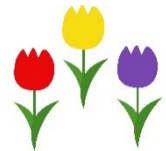
TEL : 0285-58-7055 FAX : 0285-44-6274 E-mail : chisui@jichi.ac.jp

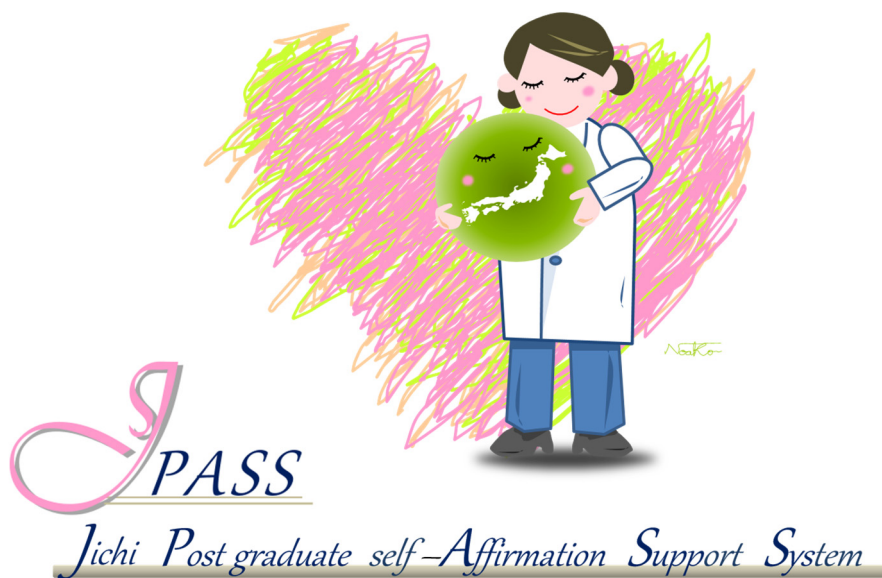
地域医療推進課女性医師支援ホームページ

http://www.jichi.ac.jp/chisuika/s_shien_jis.htm

女性医師支援ブログ

http://www.jichi.ac.jp/chisuika/jichi_womensupport/blogsummary.html





平成30年2月1日発行

発行元 自治医科大学地域医療推進課
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL : 0285-58-7055
FAX : 0285-44-6274
E-mail : chisui@jichi.ac.jp
URL : <http://www.jichi.ac.jp/chisuika/>